

## 【説明会で未回答の質問に関する回答】

北海道議会 2017.9.11 平成29年第13回環境生活委員会会議録-09月11日-01号で、百年記念塔の維持費について、高見文化振興課長の継続した場合の回答ありますが、「…毎年、維持管理費として800万円程度の費用が生じるほか…」と発言されてます。毎年の維持管理費が800万円。現在は6,000万円との試算が出てますが、何故この大きな差が出てきているのでしょうか。また、何故、当時は毎年800万と試算したのでしょうか。当時の800万の維持管理の方法と6,000万の維持管理の方法論は当然ながら変わると思います。

その試算方法は、伊藤組土建とドーコン、それと道の専門家会で概算を決めたと聞いてますが、2017年当時、伊藤組土建が維持管理を担っていたのか。ドーコンが担っていたのか。

平成29年の環境生活委員会における回答内容は、「百年記念塔の今後の維持経費等についてであります。維持経費の詳細については、現在、専門の業者に委託し、積算しているところでありますが、安全を確保し、塔への立ち入りを可能とするためには、少なくとも十数億円程度の改修工事を要し、さらに、後年度においても、毎年、維持管理費として800万円程度の費用が生じるほか、今後の老朽化を考慮すると、概ね10年ごとに大規模修繕として数億円を要すると見込まれるところでございます。」となっています。

維持管理費800万円のほか、「十数億円程度の改修工事」及び「大規模修繕としての数億円」について、設計・施工の専門家が、記念塔の現状を踏まえ、現時点の労務・資材単価を基に今後50年間の維持管理費を算定した結果、約30億円となったところです。

また、平成29年の算定においては、入札の結果、(株)ドーコンに業務を委託しています。同社においては、伊藤組土建(株)と検討委員会を立ち上げ、現況調査及び維持管理費の算定を行ったものと承知しています。

- 1 北海道庁環境生活部文化局は北海道文化振興条例（総則・趣旨「文化の振興に関する道の責務を明らかにするとともに、文化の振興に関する道の施策の基本となる事項を定めるものとする」）にもとづく業務を行う部署なのででしょうか。回答を求めます。
- 2 現在工事中の旧北海道庁本庁舎（赤れんが庁舎）は北海道百年記念塔よりも80年以上前に建てられた煉瓦造であり耐震性に課題があり、屋根からの落雪で歩行者への安全面の問題が指摘されています。北海道庁は「北海道百年記念塔は利用者の安全確保」を一つの理由にあげて「解体もやむを得ないと判断」したのは、旧北海道庁本庁舎（赤れんが庁舎）と根本的に何が違うのでしょうか。回答を求めます。

それを言ったら、北海道庁舎だって劣化してますよ。

- 1 文化振興課では、文化振興条例を所管しております。
- 2 旧北海道庁本庁舎との比較についてのご質問ですが、設置目的や構造、使用している資材、管理方法等が異なるため、一概に比較することはできませんが、百年記念塔は、乾湿を繰り返すことにより、安定錆を形成させ、腐食の進行を防止するという特徴を有する耐候性高張力鋼板を無塗装で外板に使用しているところに、旧北海道庁本庁舎との大きな違いがあります。  
平成9年に実施した日本建築学会北海道支部による調査におきましては、外板縁部の接合部分は、複雑な形状から雨水による水湿の供給が継続されており、安定錆とならず、経年とともに積層状に錆が増大、剥離した錆片が地上に落下・飛散する状況にあること、錆の進行と剥落の程度を軽減する処置はとれるにしても完全に防止することは困難との結果が示されています。  
道では、これまで専門家等による塔の現況調査結果に基づき、保守管理計画を策定の上、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じた修繕を行うなど、所有者として適切な維持管理に努めてきましたが、塔の構造上、老朽化の進行が避けられない中、錆片や部材の落下などが続いている状況を踏まえると、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断したものです。

説明会資料の10ページで「塔の外板の穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に雨水の塔内への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されます」とありますが、この問題については、平成9年調査報告書の11pに提示された「次善の策」が実際には効果的であり、平成23年調査報告書は「平成11年の大規模改修によりほぼ良好な状態を維持している」として「今後10年間（平成33年まで）の措置」の基本方針としています。このことから、指摘された穴あき等の問題の起因は塔の構造ではなく、むしろ維持管理にあるのではないですか。記念塔の所有者として、4次計画で示された管理項目を平成24年以降完全にかつ継続的に実施してきましたか。道では記念塔の完成から10年を経過した昭和55年以降云々という紋切り回答ではなく、具体的にお答えください。

落下しない様に修繕したらよいのであって、解体ありきで説明していますよね。建造物は必ず劣化はします。修繕出来ることを無視して、「劣化」は当たり前であることを、こりゃダメだって言ってるだけですよ。

私の先祖は明治の時代に北陸地方から石狩川のそばに入植し大変な苦勞をして開墾しました。お米が取れるまで50年もの歳月がかかったそうです。家の中にも雪が積もる様な劣悪な環境の中で北海道の大地を開拓してきたのです。そんな先人達の思いのこもった北海道百年記念塔をなぜ大切に道は後世に伝えてくれないのですか。壊してしまったらおしまいです。まずしっかり維持管理する事に全力で取り組むことが道の先人や子孫に対しての責任なのではありませんか。壊す壊すではなく北海道百年記念塔を後世に残すよう何卒宜しくお願い致します。

どんなに優れた物でも適切なメンテナンスを怠ると劣化も進みます。落下物は適切なメンテナンスを怠ってきた行政の責任で、北海道百年記念塔の塔体は健全です。

劣化を理由に解体するのは理由としてはいかがなものかと思えます。劣化の無い施設などどこにも有りません。

メンテナンスをしていなかったのでしょうか…。

きちんとメンテナンスをしていたのでしょうか。

どんな建物でも長い歳月を考えれば落下を100%防ぐ事はできません。茶番の説明ですか。

高橋はるみ前知事が積極的に解体を推進。メンテ費用を全く掛けず。

金額だけの問題ではありませんよ。道産子としての誇り、先祖への感謝の気持ちを踏みにじられている気がします。不愉快甚だしい。数字を羅列しないでください。

これだけ経費かかってめんどくさいからぶっ壊しまーす。って言っている様にしか聞こえません。

維持費は、きちんと予算取って修復して下さいませ。

それじゃ、旧道庁だってそうだろう。

近年百年記念塔の保守費用が大幅に削減された理由は、保守をきちんとすれば維持出来ると思います。

道民にとって大事な塔なので、杜撰な改修をしないでまともな改修工事をすればいいだけです。安易に壊すことは反対します。

老朽化で解体とか、老朽化で倒壊の危険などと言いますが、外側を囲ってきちんと検査し補修したらいいじゃないですか。エッフェル塔やピサの斜塔の存続の技術を学べば、倒壊など起こりません。最初からこの記念塔が倒壊の危険などないと建築家さんたちの存続プロジェクトの方々が仰っていました。何とかして存続しようとしなのは道民への裏切りです。税金を返してください。

維持費はケチっちゃダメだと思います。

老朽化で維持管理にかかるお金の問題ですか。それなら道の無駄を削ってでもその経費を捻出して下さい。最悪職員削減してでも残す意味の方が大きいと思います。

いや、負担はさせられてもメンテしていなかったですよ。

維持管理費で50億。

ちゃんとメンテナンスしなかったから50億かかるんじゃないの。

解体ありきで故意にメンテナンスしなかったのでしょうか。

維持管理費は負担ではない。

維持管理50年で30億、年6,000万の費用負担が将来世代の金銭的負担とは到底思えません。

ここ近年の百年記念塔の維持費の激減に対する説明をお願い致します。維持費をかけていなければ損傷が拡大するのは当然です。管理者の北海道知事の怠慢をどさんこ道民に押し付けている構図と思います。

そもそもどんな維持管理をいままでしていたのでしょうか。

高橋はるみ知事時代から、メンテナンスを怠っていたのは明白ですよ。グラフはうそをつかないですよ。

ここ近年きちんと百年記念塔の維持費を確保していなかったのは明らかです。維持管理していなかった理由は、逆に維持管理していなくても大きな事故は無かった。逆に百年記念塔は問題無かったという事では有りませんか。

平成22年から安全確保を怠っていた姿勢について、コメントをお願いします。

この建物はどんなメンテナンスをしても無理ということですか。そんな馬鹿な話はないですよ。

井口健さんが記念塔ファンでおっしゃられている通り、風雪100年を念頭に建築設計されて建っているのだから、今から普通にメンテナンスすれば十分あと50年は問題ないのではないですか。なぜそれをずっと前からメンテを中断したりしていたのでしょうか。メンテナンスをやらない理由は何だったんですか。答えて下さい。

H22からパタッとメンテナンスに費用をかけなくなりましたね。それでは傷むのは当たり前の話ですが、メンテナンスを怠った道の責任はどなたがどう取るのですか。

北海道百年記念塔は柴田拓二先生が示された維持管理指針に基づいて管理を行っていけば、健全性は保たれるのである。平成23年に策定した4次計画は平成33年までの管理計画だが、この計画通りに継続的に維持管理は行われているのか。4次計画に基づく維持管理の具体的実施内容について示してほしい。

道では、概ね10年ごとに専門家の方々による塔の現況調査を実施し、保守管理計画を策定した上で、老朽化した箇所や改修工事を計画的に行ってきましたが、平成8年9月頃から塔の周辺地上部の数カ所で耐候性高張力鋼板の縁部が腐食して剥離落下しているのが認められたことから、平成9年に建築家の専門家である(社)日本建築学会北海道支部に塔の現況や今後の対応について調査を依頼しました。

その結果、塔の構造上、外板周辺部の錆の進行と剥落について、その程度を軽減する処置はとれるにしても、錆や腐食の進行など、老朽化の進行を完全に防止することは困難であり、塔全面の外板を取り替えざるを得ないが相当な費用を要すること、このため、塔への立ち入りを認めない処置も合わせて検討すべき時期にきているとの指摘を受けたところです。

道では、次善の策として、錆の落下防止を主目的にして物理的に進行錆を落とし、今後の錆の進行を遅延させる措置を平成11年に3億4,500万円かけて修繕を行うとともに、その後においても、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じ、専門業者とも協議をしながら修繕を行うなど、所有者として適切な維持管理に努めてきたところです。

しかしながら、平成26年7月、塔内部において相当量の錆片の堆積や、外板ルーバー下端見切板に腐食による穴や鉄板の浮きが確認されたため、専門業者による緊急調査を実施した結果、更なる錆片の落下や部材の剥離・落下も懸念されたことから、公園利用者の安全確保のため、塔内部への立入禁止措置を講じたところです。

その後においても、緊急的に対策が必要な箇所や修繕を優先して行うとともに、塔の解体方針の決定後においても、必要に応じて点検・補修を行ってきました。

今後50年間、記念塔を維持管理するための経費につきましては、設計・施工の専門業者の積算によると、塔への立入を可能とする場合は、30億7,375万円、モニュメントとして維持する場合は、28億4,090万円と見込まれています。

維持管理に上記の経費を費やしても、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、塔からの錆片や部材の落下の危険性を排除できないため、公園を利用される方々の安全確保と将来世代の負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断したものです。

tokusentai.jp、情報紙「特選隊」のHPに道見議員と北海道の議会でのやり取りを載せている。「記念塔は平成11年の大改修で健全な状態を維持していると外部に委託した専門家は評価した」、滝口議員「ではなんで壊すのか。」「老朽化（健全な状態でないの）で解体する」。ウソつけ！ばかやろ、意味不明だろ。日本人を相手にしてんだぞ。なめるなよ鈴木直道知事は夕張を中共に売っただけでなく北海道を売ろうとしている。

平成23年度の調査報告書におきましては、塔体外部及び内部は、ほぼ良好な状態を維持している一方、外板周辺部の錆の進行とその剥落は軽減処置がとれるにしても完全に防止することは困難で、経年と共に錆の進行と溶接破断、ボルトの損耗等が見受けられるとされています。

水処理を徹底して設計しないとコルテン鋼は駄目なんです。と設計者の井口健さんはインタビューで仰っています。道は、伊藤組土建とドーコンの検討会で、塔の設計上、これ以上の水処理は出来ないと回答しています。設計時に既に設計者井口さんはコルテン鋼は水に弱いと知り、最善の設計で水処理をした塔です。しかし当初の設計とは違う構造を採用しています。

百年記念塔はモノコックではなく、鉄筋トラス構造となりました。この方針の変更の過程は不明です。←これが原因か。

コルテン鋼は…水の処理が悪いと酸化被膜が上手にできずに普通の鉄と同じく腐食し穴が開いてしまいます。←今の状況です。

落下物だって後付けのステンの水切り板を間違った取り付けによって起きたんでしょ。対策をとればいいだけでしょ。違いますか。

当初の設計ではモノコック構造にするはずが、水に弱い鉄骨トラス構造に変更した理由がそもそも原因ではないですか。

コルテン鋼の特質も良く知られていない中で、老朽化を印象づける説明は誤解を招くことが、この説明会でもわかりましたね。

メンテナンス不十分だから日焼けして色が抜けていますね。

この認識は違います。コルテン鋼の経年変化の色です。日本製鉄のホームページをご覧ください。  
<https://www.nipponsteel.com/product/plate/list/04.html>

コルテン鋼は水に弱く、後に塩分に弱い事が分かりました。設計者の井口氏は、コルテン鋼の百年記念塔を塗装せず、裸のまま設計しました。錆がコルテン鋼を覆い腐食を遮るからです。しかし、初期のモノコック設計ではなく、鉄骨トラス構造に変更しました。設計者の井口健氏は、その事情を知らされていませんでした。鉄骨トラス構造は東京タワーなどに採用されていますが、水が溜まる構造になります。東京タワーは5年に一度、一年を掛けて大規模な全面塗装工事を実施しています。

米国とは違うといいますが、この鋼材はどこメーカーのですか。また北海道は比較的湿度は低めだと思うのですが。日本製鉄の資料をきちんと公開していただけないでしょうか。

コルテン鋼の安定の要件に「適度に乾燥」と言うが、北海道に梅雨は無いし、じゅうぶん乾燥する。中にプールでもなければ数日有れば乾燥する。理由がおかしい。

外板に使用されている耐候性高張力鋼板は、無塗装で使用した場合には、数年間で表面に密で硬い酸化膜（安定錆）が形成され、腐食の進行が防止される特色があるが、安定錆の形成のためには、表面が外気にさらされて適度に乾湿が繰り返され、風雨によって表面に浮いた錆が洗い流されることが必要とされています。

記念塔の場合、全般的には安定錆が形成されているものの、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない外板と縁アングルの接合面において、錆や腐食が進行し、錆片の落下等が発生しています。

モノコック構造との比較や、その場合の錆の発生度合い等は、承知しておりません。

なお、鋼材のメーカーは、新日鐵住金株式会社です。

先ずはこの様な説明会を開いてくれたことに感謝いたします。私は札幌生まれ札幌育ちで、先月、還暦を迎えた者です。今日は参加していませんがアイヌ系の知人と私の考えを話させていただきます。

結論から申し上げますと、百年記念塔は時間を掛けてでも、存続させる方策をもう一度、考えるべきだと言う事です。理由として、現在、様々な百年記念塔解体に対してネットで配信され、多くの人が百年記念塔解体に疑問を持っています。その一つに、アイヌ協会やそれを支援する人たちの圧力で百年記念塔が解体されるのだらうと思っています。私は子供の頃に百年記念塔にはアイヌの人々に対して配慮が欠けているのではないかと。後々に問題になるだらうと一般公開されてからの一連の流れをみても、その様に思っています。文化遺産と成りえる百年記念塔が老朽化の為に50年で解体されるなど前代未聞の話です。去年、鈴木知事が「現在もアイヌの人たちが、いわれのない偏見や差別、心無い誹謗中傷やいじめにあって、傷ついている」と言われていました。しかし、私は60年間、父や私の知人にもアイヌ系の人はいましたが、偏見による差別など見た事も聞いたこともありません。当然と言えば当然です。アイヌの血が入っている事は差別の対象ではないからです。逆にアイヌの血が入っているという事で私の知人は自慢していたくらいです。しかし、百年記念塔が解体されたら「これから、アイヌの人々が開拓の文字を消す為に、道庁に圧力を掛けて、百年記念塔を解体させたという、いわれのある理由で軽蔑の目でみられると思います。差別がなかったものが、新たに差別、いや様々な、軋轢が起こると思います。これは私のアイヌ系の知人も危惧していることです。これは新たな差別を作り出す為に敢えて、百年記念塔を解体するのではないかとしか思えません。それでは共生社会の理念が崩れると思います。百年記念塔解体は、次世代に様々な軋轢を作り、負の遺産を残すという事です。

専門的知識をお持ちの方もおられるようで、改めて解体ありきで話が進んでいることが分かります。アイヌ系の知人が言っていました。新たな差別を作る為に百年記念塔は解体しなければならないと。後世に金銭的負担よりアイヌ系の方々との軋轢という、あってはならない負の遺産を残すこととなります。どうか解体を思い止まってください。

コレを実現しないと支那に怒られるのですか。アイヌ協会が許さないのですか。誰に脅されているのですか。

記念塔は、長く道民の皆様に親しまれてきており、道としては、その保存・活用について、様々な専門家の方々の知見を伺うとともに、道民の皆様からのご意見を踏まえ、慎重に検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは難しく、塔からの錆片や部材の落下の危険性を排除できないため、公園を利用される方々の安全確保や将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断したところであり、決して特定の団体の方々などの意向により解体するものではございません。

また、解体後の跡地に設置するモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとしていく考えであり、具体的な内容につきましては、今後、民間からのご提案や道民に皆様のご意見を伺いながら決定してまいります。

道としては、今後とも、塔の解体の判断に至った道の考え方について、ご理解いただけるよう努めてまいります。



昨年、新日鐵住金株式会社の「百年記念塔腐食状況調査報告について」を開示請求いたしました  
が、全部黒塗りで全く内容がわかりません。個人情報とおっしゃいましたが、調査結果の結論まで  
もが個人情報なのでしょうか。

構造材まで老朽化しているかどうか、新日鐵住金の調査結果の黒塗りを外しないと、わかりませ  
んよ。個人情報といいますが、誰の個人情報ですか。責任ある方の調査ではないということでは  
うか。

本調査結果報告につきましては、同社からのヒアリング内容をまとめたものですが、会社からは  
公表されることにより今後の業務に支障がある旨申し出があったことから、「道の事務又は事業に関  
する情報であつて、開示することにより、当該事務若しくは事業又は将来の同種の事務若しくは事  
業の公正若しくは円滑な実施を著しく困難にすると認められるもの」（北海道情報公開条例第10条第  
1項第6号）に該当するものとして、非開示としたところです。

なお、構想においては、記念塔の安全性の検討に関する専門家の意見として、「外板の素材メーカ  
ーによる調査結果」を公表していますが、構想にのみ記載することを条件に同社から了承をいただ  
いております。

記念塔は江別・厚別を中心に広範な地域で50年にわたり景観を形成しています。記念塔を解体することはその景観を壊すことを意味します。記念塔が建設された当時、近隣では大規模な団地が形成され、多くの人が記念塔に対して思い入れがあります。記念塔の解体はそのような人たちへ喪失感を与えます。心のケアも必要です。それにはもっと丁寧な説明と時間が必要です。例えば、札幌のテレビ塔や東京タワーをお金がないから解体しますと言って賛成される方は少ないのではないのでしょうか。これらは維持するためにきちんと修繕されていますが、翻って記念塔はどうでしょうか。道が説明しているほど多くの人が修繕してきたと感じていないと思います。本来、地域に根差したランドマークをなくすことは難しいはずですが、多くの人への周知と議論なくして記念塔の解体はあり得ません。残念ながら、道の行っている近隣の町内会や学校への説明は不十分です。たとえ町内会長に説明しても、その内容が町内会で共有されておられません。また、学校への説明も校長への説明では、その学校の児童・生徒や保護者へは伝わっていません。解体が既定路線への単なる「アリバイ」づくりになっており、一方的な説明に終始し、意見や議論をするようなものになっていないと感じます。もっと、道や市の広報を通じて説明する、知事が会見を開いて発表しその内容をメディアを通じて発表する等もっと多くの人に説明し、時間をかけて議論されてはどうでしょうか。記念塔が解体されることを知らない人が多くいるのが現実です。現状では安全性が担保されないとのことですが、外装の部品が落下したのは大規模な台風で強い風の時であり、通常は一定の範囲を立ち入り禁止にすれば、危険はないはずですが、ことさら危険性を強調して、解体を早めようしている意図を感じます。

記念塔解体後にモニュメントを設置しても失われた景観は元に戻りません。失われる景観に対して道はどのように対処されるのでしょうか。近隣の学校では校歌や校章の中に記念塔が表現されています。また、江別市のカントリーマークの中にも記念塔が表現されています。もし記念塔が解体されても、これらはそのままにされるのでしょうか。だとすれば無責任です。記念塔の映像やパネル等を学校に送っても失ったものへの代替にはなりません。これらの変更作業等は道の責任で行うのが筋だと考えますが、これらへの対処をどのように考えています。ちなみに札幌市に確認したところ札幌市が主体となって校歌・校章の変更はしないとの回答でした。

今現在までに、解体反対の意思表示は何件来ているのですか。総件数のうち、何パーセントを占めていますか。

解体の了解は道民にきちんと取られていますか。

北海道民への徹底周知の方法は不十分だと思います。

この説明会以前にきちんと解体説明会は行いましたか。

北海道札幌生まれ、旭川育ちで札幌在住の50歳代です。今の職場でもコミュニティでも厚別の地元の職員でさえも、未だにこの記念塔の解体のことを知らない人がいる現状で解体を進めるなど、行政として道民を無視し過ぎていますがどう思っているのでしょうか。

私はつい先日知りました。こんな大事なことを何故こっそりと進めているのでしょうか。不信感しかありません。

解体が決まっているのですか。知りませんでした。今一度調べてほしい。

HPを誰がそんなに詳しくみるんですか。私、町内会役員してますけど、つい最近知りました。
私の家には広報ほっかいどうは来ません。その存在も知りませんでした。広報さっぽろは毎月とどきますよ。
是非、町内会ごとに説明をしてまわって生の声を聴くべきでは。
道民の声を聞いてませんよ。
パブリックコメント、住民意見、有識者懇談会等の存続意見は黙殺されていると思います。存続意見に対してどのように真摯にご説明されたのかをご教授ください。
百年記念塔の解体の周知はどの様に行い賛同していますか。何人の調査で何人の賛同が有りましたか。
解体が決まってる上での説明会という印象ですが…なんだか驚くことばかりで戸惑っております。
正しい維持方法を取った場合、今後数十年以上、十分に維持することが可能であることは調査により判明しております。にもかかわらず、解体以上に予算を掛け、新構想を実現させようとする道の意思には不信感を抱かざるを得ません。明らかに財政確保という道の本心が透けて窺えます。少なくとも道民に対する解体にまつわる道民との建設的な議論、またその同意について、理解が足りていないことはそちらも認識しているはずです。
誰もが納得していないことを強行するのは社会主義国か共産主義国のやり方だろう。民主主義と言って選挙をしたあとこのようなことをされたら国民はどうしたらいいのですか。
校歌の歌詞になって人々の思いとともにある。かかけがえのない価値があると思うのですよ。
道として、解体せずに利用していくアイデアを道民から募ることを検討してはどうですか。

道では、記念塔を含む百年記念施設のあり方に係る検討を行うにあたり、その議論の経過も含め、多くの道民の皆様幅広く周知の上、ご意見をいただくことが必要と考え、道民ワークショップを3回、大学への出前講座を2回開催するとともに、百年記念施設を利用された方々や全道の社会人及び大学生の方々を対象としたアンケート調査の実施、さらには道のホームページを活用して、広く意見を募集するなど、道民の皆様への周知に取り組んできました。

また、記念塔解体の判断に至った考え方や、解体後の跡地を含む広場整備の方向性をお示した「交流空間構想」の策定にあたっては、検討会議の開催の都度、報道発表を行うなど、周知に努めた結果、数多くの新聞やテレビなどで取り上げていただいたところです。

そのほか、北海道商工会議所連合会などの経済団体や北海道市長会、町村会をはじめとする各自治体、地元の市役所や区役所に加え、地元町内会の方々や記念塔を校歌・校章に用いている学校に対しましては、それぞれのご都合を伺いながら、可能な限り直接お会いし、記念塔の解体もやむを得ないという方針について、説明を行ってきました。

記念塔を校歌や校章に使用している学校からは、「解体されるのは寂しい」「校歌・校章を変更する予定はない」といったご意見のほか、「学校にしながら記念塔があった事実を児童・生徒に伝えら

れるようなものがあればありがたい」といったご意見をいただいたところです。

また、地元町内会の方々からは、「地域のランドマークであり、なくなることは寂しい」「維持管理に多額の費用がかかるのであればやむを得ない」といったご意見のほか、「噴水などがあれば地域の人にとって憩いの場となる」「賑わいのある空間となり、活性化されることを期待する」といったご意見をいただきました。

道としては、今後も、存続を願う道民の皆様の思いや様々な主張を真摯に受け止めながら、塔の老朽化が進行している現状や解体の判断に至った道の考え方について、ご理解いただくよう努めてまいります。

有識者への意見を聞いた中にヘリテージマネージャーとありますが、専門家ヒアリング実施先にあるヘリテージサロンのことを指しているのであれば誤りではないでしょうか。ヘリテージマネージャーは建築士等の有資格者で60時間の講習を受けた歴史的建造物の専門家ですが、ヘリテージサロンは大工等の任意参加の技術者集団で専門家とは限りません。ヘリテージマネージャーとヘリテージサロンを混同されてませんか。また、専門家ヒアリング実施先に札幌市立大学の羽深名誉教授が入っておりますが、北海道の建築審査会の会長や赤レンガ建築賞の審査委員長を務めており、ヒアリング先としては第三者的視点に欠けるのではありませんか。

以上のことから、有識者選定の根拠を示してほしいです。

交流空間構想でお示ししているヘリテージマネージャーは、一般社団法人北海道建築士会のことであり、伝統建築技能集団建築ヘリテージサロンの方々に対しましては、古民家再生に関する技術承継の観点からヒアリングを行ったものです。

また、羽深名誉教授は、歴史的建造物の保存再生の専門家であり、学識者として大学教授の立場から、記念塔のみならず北海道開拓の村や周辺施設との連携等についてご意見を伺ったものです。

質問1 2020年10月26日に、我が国は首相所信表明で2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。また2015年9月に、国連加盟国が採択した持続可能な開発目標（SDGs）実現は将来世代への負担軽減になります。この観点から、百年記念塔は維持管理を適切におこない、長寿命化することで、CO<sub>2</sub>排出削減に貢献できます。しかし、解体工事をおこなう現状方針では多大なエネルギー排出となり、北海道は国や全世界の方針に反する政策を執行することになりませんか。回答を求めます。

質問2 北海道庁には建築士や建設技術に精通した優れた職員が多数在籍しています。今日までの検討プロセスでは、庁内の優れた人材資源が生かされているとはいいたくないと思います。北海道の大切な建造物（百年記念塔）の評価を行うためには、庁内の優れた人材を活用し、組織横断的なプロジェクトチームを編成し万全を期すべきではありませんか？回答を求めます。

#### 質問1

記念塔は、その構造上、今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは困難であり、公園を利用される方々の安全確保や将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断したところです。

なお、解体にあたっては、いただいたご意見も参考にして事務を進めてまいります。

#### 質問2

道では、記念塔の解体もやむを得ないとの考え方をお示した「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の策定にあたっては、建設部など関係部局の職員で構成する庁内横断的な検討会議を設置した上で、様々な専門家や有識者の方々の知見を伺うなどして、検討を行ったところです。

専門家によりますと、記念塔の骨格部及び基礎部は格別に頑強なつくりになっているそうです。石山北大名誉教授なども塔の耐久性に問題なしと判断されています。当初、記念塔の寿命は何年の目標で設計、建設されたのですか。

塔の現状について、設計・施工の専門業者による調査結果においては、主体鉄骨部については、現在も著しい損耗は見受けられないものとなっていますが、外板部については、「水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所での錆の進行でトラブルが発生している。外板部と縁アングルの接合面、縁アングル相互の接合面、塔体内部の凹凸部に顕著な発錆が認められ、特に接合面の発錆は外板の変形や接合面の破断を伴って、更に進行すれば、外板の剥離、落下を招く危険性がある。」とされているところ です。

なお、記念塔は鉄骨造であり、その耐用年数は50年となっています。

老朽化はしていないとの調査があるようですが、第三者委員会を設けてはいかがでしょうか。

説明会資料の15ページで「これらの方法についても検討を行いました」と述べられていますが、これらは、いつ、どこで、だれが、どのようなフレームで行った検討ですか。プロセスをトレースしても15pにある検討の場を発見できません。非正規な雑談レベルではないですか。記念塔の「歴史的・文化的価値は否定しない」というならば、コルテン鋼という希少な外板を使用した大規模モニュメントであり、建築や構造、鋼材、建築史、文化財保全などについて知見を有する専門家による独立性の高い諮問機関を正規に設けるべきではないですか。

道では、記念塔のあり方を検討するにあたり、建築鋼構造や構造力学・地震工学、建築構造学など学識者の方々や、専門コンサルや設計・施工の専門業者、外板の素材メーカーなど、様々な専門家の方々の知見を伺いながら、塔の保存・活用について、十分に時間をかけ、慎重に検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、公園利用者の安全を確保するためには、解体もやむを得ないとの判断に至ったものです。

道としては、塔の解体に関して、建築の専門家の方々の考えなど、様々な意見があることは承知しており、今後とも、解体の判断に至った道の考え方について、ご理解いただくよう努めてまいります。

北海道百年記念塔は、北海道を「開拓」された皆様の思いを伝えるためのモニュメントです。新モニュメント構想では、この「開拓」の言葉が抜けています。今回は設計者である井口健さんも参加されていると思います。井口さんの思いを尊重しているとは思えません。

新モニュメント構想に、最初から井口健さんを参加させなかったことに悪意が感じ取れます。

井口健さんを見捨てているようですが、道庁は功労者を称えないのですか。井口さんは老朽化してないと話されていますし、解体される理由はないと仰っていますよ。道庁はこの方の意見や解体の必要がないと言っている建築家たちの意見を聞かないのは何故ですか。

単純に北海道百年記念塔の設計を井口先生に依頼して、50年後には解体する上で町村金五さんが伊藤組さんに発注したとはどうしても思えないです。

前回、「井口さんからは、記念塔につままして雨水等を完全に防ぐ事は物理的に不可能だなど、防水の難しさなど」の説明を受けたとのことだが、道の担当者からメモを渡され「目地からの雨水の浸入を防ぐ方法は」と記されていた。「構造設計上フリージョイントになっているため完全に防ぐことはできない」と回答したが、一滴の浸入もないということはない、という一般論を述べたものであって、水の浸入を排除する設計となっており、実際には殆どなく、保守管理で対応できるものである。老朽化、危険などの拡大解釈は適切ではない。安全確保は難しいとは無知の意見である。

井口健氏は本当に被害者ですね。一級建築士、世界的なデザイナーを愚弄してますね。北海道の決定は本当に恥。

繰り返しますが、今回は井口健さんが参加されております。井口健さんの想いを無視して作られたこの新構想、許せますか。

井口健さん抜きに新モニュメント構想を決めるのは暴力的としか思えません。設計当初の構想を完成させるのが筋です。

今なお未完成である井口健さんの設計構想を、しっかりと予算を付け完成させるのが、真の意味での新構想ではないのでしょうか。

「設計者の井口様に対しましては、記念塔の現状ですとか、議論の経過を丁寧に説明」したというが、私がこの件で道に出向いたのはこの5年で4回ほど。初回で意見を申し述べたが、何一つ質問も、意見交換もなく、ただ聞き置くだけだった。有識者懇談会について会議など必要があれば、いつでも来ますので連絡を下さい、と話したが1度も連絡なし。2度目に塔の現状として説明を受けたとき、資料として見せられたのは啓成高校の学校新聞だった。最後は空間構想ができたというので、年末に見せられた。概略を聞かされた後、「何かありますか」と聞かれたが、今更何も言うことはない、と答えた記憶がある。丁寧な対応ではなく事務的かつ一方的な説明だけだった。

「記念塔の内部の現場もご覧いただいたということがございます」と説明したというが、事実は、伊藤組土建に塔を見せてくれと要請したところ、現場に呼びもしない道とコンサルの職員がいたというだけであって、道に招待されたものではない。内部を見たいと要請したが、鍵がないから入れない、そんなはずはない、の押し問答の末、ようやく中に入れてもらった記憶がある。もう1回は

「考える会」との同行で、これも道から直接招かれたものではない。

新建造物いらんだろ。井口健氏にどれだけ失礼なんだよ。

井口健さん抜きでの北海道百年記念広場の構想、ひどいですね。

記念塔のあり方の検討にあたり、道としては、設計者である井口様に対し、記念塔の現状や議論の経過を丁寧にご説明するとともに、今後のあり方などに関して、ご意見を伺うことが必要と考え、平成29年以降、5回に渡って直接お会いし、ご意見を伺うとともに、道民ワークショップや専門家ヒアリングの結果、庁内検討会議の状況など、節目節目で資料をお送りし、ご意見を伺ってきました。また、令和2年6月には記念塔内部の現状もご覧いただいたところです。

井口様からは、骨組みのみ保存する方法や低層部のみ保存する方法などについては、「形状を大幅に変更する残し方は容認できない」、防水対策については、「地震等の揺れに対応するため、あえて隙間をつくっており、雨水等を完全に防ぐことは物理的に不可能。定期的に管理していくしかない。」とのご意見をいただくとともに、今後については、「モニュメントとして維持し、自然に委ねるのが本来の姿」とのご意見をいただいたところでございます。

道では、井口様のご意見や道民の皆様から寄せられた様々なご意見を踏まえ、記念塔の保存・活用について、様々な分野の専門家や有識者の方々の知見を伺い、時間をかけて慎重に検討を重ねましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、錆片や一部部材の落下などの危険性が排除できない中、公園利用者の安全を確保するためには、解体もやむを得ないとの判断に至ったものです。



設計不良の負担を道民に求めるのは筋違いだと思いますがいかがでしょうか。
それが設計不良です。
それは一般に設計不良と言われます。
百年記念塔は当初から欠陥塔だった可能性はないのでしょうか。
まずは設計不良を認めませんか。
つまり、初期の建設時から欠陥の塔だったという事なのでしょうか。
百年記念塔は設計不良の塔だったか。
水に弱いコルテン鋼をしましたが、水が溜まりやすい構造の鉄骨トラス構造に変更したのが原因ではないですか。百年記念塔は当初から欠陥の塔なのですか。

記念塔は、設計競技（コンペ）を実施し、建築家と学識者で構成する委員会において、予算、構造、施工など諸条件に対する適合性について、慎重に審査を行い、作品の選定を行ったところです。

道では、完成から10年を経過した昭和55年以降、概ね10年ごとに専門家の方々による塔の現況調査を実施し、保守管理計画を策定した上で、老朽化した箇所への修繕や改修工事を計画的に実施してきましたが、一方で、日本建築学会北海道支部など建築の専門家の方々からは、塔の構造上、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所があり、錆の発生原因となっているとの指摘を受けているところです。

雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しく、今後の塔の老朽化を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至り、錆片などの落下が続く中、公園を利用される方々の安全を確保するためには、塔の解体もやむを得ないと判断したものです。

記念塔は建築基準法12条に定めるところの建物の敷地及び構造、昇降機についての定期報告の対象となっているのか。なっているのであれば過去に行われた補修などは、その定期報告に基づくものであるのか。

説明会資料の13pにおいて内部大規模改修にエレベーターシャフト関連工事がありますが、14pにある「R5・R30のエレベーター更新費」に含まれず、それとは独立して50年間に3回繰り返される理由がわかりません。エレベーター更新と大規模修繕の経費内訳をお示してください。

百年記念塔については、工作物の位置付けとなっています。

なお、昇降機については、建築基準法に基づく定期検査及び報告を毎年実施していましたが、ドアの開閉に不具合が生じたことから、令和2年4月に使用を中止しています。

また、設計・施工の専門業者から示された今後50年間の維持管理費の算定において、エレベーターシャフトについては、過去の修繕経過や老朽化の現状などを踏まえ、塔体内部の鉄骨補修などとあわせて実施することとされています。

一方、エレベーターの更新については、公益社団法人ロングライフビル推進協会が定めている計画耐用年数に基づき、更新のサイクルを25年と設定し、令和5年及び令和30年に89,300千円が計上されているところです。

<p>聞こえないですって。喋っている説明内容全部書き起こしてください。</p>
<p>北海道の未来を左右する重要なオンラインミーティングなのに、こんな聞き取りにくい状態で行うとは何のつもりですか。真摯な態度が見受けられません。そんな態度だから道民の反対が多いと思います。北海道庁はちゃんと北海道民を見て仕事してください。</p>
<p>説明会を開いて道民の意見も聞きましたと言うアリバイ作りですか。そうでないのなら、ここでの質問を検証して答える必要がありますね。</p>
<p>どうしてお互いの会話すら出来ない説明会をやるのでしょうか。これなら録画したのを流すのと同じですよ。ミュート解除出来ないとか、来てみてビックリです。住民説明会って当たり前じゃないのですか。</p>
<p>アリバイ作りの説明会ではこの説明会は開催する意味があるとは思えません。</p>
<p>このまま進行するのでしょうか？ 何故質問に答えないのでしょうか。</p>
<p>参加者の声を聞かない。今の北海道の姿勢そのものです。質問、意見は受け付けるけど何も対応しない。</p>
<p>しっかり文字だけではなく、画像を用いてビジュアル的に説明してください。素人にはわからない表現が多すぎます。</p>
<p>この説明会での道民の声をパネルにでもして道庁の一角に一定期間展示するなどして、もっと現状を周知させて下さい。</p>
<p>ガス抜き、自由に意見を言ってください。それで何も変わりませんが。</p>
<p>ここにチャットでメッセージを上げている参加者の皆様には、百年記念塔の解体に賛同しているとは思えません。きちんと解体の賛否を広報してあらためて道民意見を求めるべきと思います。</p>
<p>解体の賛否はきちんと広報のうえ道民、どさんこの意見を求めるべきと思います。</p>
<p>こんなzoom説明会、高齢者がどうやって受けれるんだよ。コロナ禍にこれが道の言う多様性ですよ。</p>
<p>私はzoomを使いこなすのに悪戦苦闘して、途中からやっとチャットできるようになりました。こんな老人に難しい説明会ってひどくないですか。</p>
<p>質問、順番通りにはやらないんですね。答えられないのを後回しにして時間来るの待っているのですか。この苦痛な説明会を道民の皆さんにも知ってもらう必要があるので絶対にYouTubeで流してください。</p>
<p>これで20時30分、時間となりましたので終了します、となるのかな。中断した分はしっかり</p>

時間延長してください。
道民の声。聞くわけないだろ。ばっかじゃないのか。
聞き取れない説明会では開催実績と言えないのではないのでしょうか。
この説明会の開催の意義がわかりません。少なくとも説明会の参加者は解体賛成意見は無いですね。
「北海道百年記念塔広場の整備等に関する説明会」に、記念塔解体賛成派がいなかったという事実は重く受け止め、しっかり発信してくださいね。
想定質問以外もしっかり回答してください。
まずはこの音質不良について説明してください。
そもそも無理がある説明会だが、それでもこれだけの方々が一生懸命質問を打っているのだから、時間を過ぎても全部に答えて文字起こしして道庁のHPに一定期間載せて下さいね。
難しい単語をいきなり話されても分からないのですが、後で全部聞き直せるようにしてください。
チャットに書き込まれる質問から選び、答えようとする姿勢は見えるけど、音声が残念です。
今私達が質問していることに答えるのではないの？
コロナが落ち着いたら、リアルで開催は必須であると思います。特にZOOMでは限られた世代の意見しか聞けないと思います。この説明会を持って住民への説明が十分なされたとお考えですか。
ずーむはアリバイ
どこに公開。
後日。いつ。
いつまでに回答するんですか。
YouTube公開のぞみます。
質問のいくつかはマイクの不調のせいにして回答していませんよね。
1、2、3回の説明会をYouTubeで公開して下さい。
周知しないからこの説明会の存在自体知らない道民が多い。
この記録を紙だけではなく動画の公開を強く望みます。

<p>YouTube公開して下さい。</p>
<p>賛成です。youtubeお願いします。</p>
<p>You Tubeで公開、賛同します。ぜひお願いします。</p>
<p>必ずYouTube公開して下さい。</p>
<p>聞き取れないので動画アップしてください。全部の質問にも時間外でいいから声で答えてアップしてください。</p>
<p>秘密の説明会にせずにYouTube公開を。</p>
<p>説明の音声聞こえません。最初から音声調整の上やり直してください。</p>
<p>音声が悪く何を話されているか聞き取れません。質疑回答はきちんと活字にして道民に周知することを希望します。</p>
<p>これ、ライブでやる意味あるんですか。対面が出来る時期まで待つてやり直さないと、参加者は一方通行で納得できないです。</p>
<p>第1回説明会、第2回説明会での質疑応答・提出された意見を公開してほしい。もちろん、この第3回説明会でのものも。</p>
<p>3回分の議事録待ってます。</p>
<p>質疑内容を公開する予定とのことですが、公開時には今回説明会に参加者へは公開したという情報を流して（メールで連絡）いただけるのでしょうか。</p>
<p>説明会での質問、意見は今後公開とのことですが、なぜ公開まで時間をおくのですか。丁寧に回答されているならば、すぐに公開されたほうが参加者の理解は深まると思うのですが</p>
<p>茶番そのもの。</p>
<p>すべての質問が存続を求める意見のように拝見出来ますが、この説明会での参加者の賛否を確認してはいかがでしょうか。定量的なデータが全く見えない。恣意的な判断が行われていると思えます。</p>
<p>説明会に解体を賛成してる人は居ないですね。これが民意なのでは。</p>
<p>いくら聞いても納得できる説明がなされないんですね……。専門家が専門的な見地で返答する説明会の形態のほうがよくないですか。</p>
<p>この説明会で道民の解体反対の意見が考慮される可能性はあるのですか。無いのなら解体説明会</p>

<p>ということですよ。馬鹿にしてるのですか。</p>
<p>この説明会に参加された方の中に解体の賛同者はいないのでは無いのでしょうか。</p>
<p>道産子道民の意見をきちんと聞いてください。少なくとも、この説明会には百年記念塔の解体賛成者はいないです。</p>
<p>こんな大切な説明会に、何故鈴木知事は参加されていらっしゃるのですか。</p>
<p>何故鈴木知事はいらしていないのでしょうか、こんな大切なことなのに…。</p>

音声の不具合が生じたことにつきまして、大変申し訳なくお詫び申し上げます。

説明会で使用した「資料」及び「会議録」と「時間の関係上、説明会の場でお答えできなかったご質問に対する回答」につきましては、下記のURLで公開していますので、お手数ですが、ご確認いただければと存じます。

また、今後につきましては、今回参加できなかった方々をはじめとする道民の皆様から寄せられる問い合わせの状況や、新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえ、必要に応じて対応を検討してまいります。

なお、説明会の内容につきましては、知事にも報告しております。

**【URL】**

[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/hyakunen\\_setsumeikai.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/hyakunen_setsumeikai.html)

<p>新しいモニュメントがどのような形で大きさを誰の設計でどんな意味を持つのか、設計者から計画、金額まで決まってから百年記念塔の解体を考えるべきです。なぜなら、今されている説明と全く違うものが計画されたり、実際何も建たない可能性も否定できず、解体してからでは取り返しがつかないからです。解体を反対している自分としては、周知もごく一部で大きく取り上げない道のやり方が全く信頼出来ませんので、せめて今からでも確実な方法を取って下さい。</p>
<p>新しいモニュメントをつくるのですか。知りませんでした。驚きです。必要ないのでは。北海道百年記念塔を維持した方が良いのでは。</p>
<p>北海道は美術的価値のある建造物一つ、守る事ができない。厚別、江別は魅力の無い街になってしまう。</p>
<p>しかも跡地の新構想まで描いているのは順序が逆ではありませんか。こんなやり方を認めるわけにはいきません。非常に非常に非常識。</p>
<p>残せばこんなもの作らんでええがな。</p>
<p>今現在、十分多様性を認めている土地なのに、更にイチャモンと言える「ボクたちのかんがえた多様性」の強要は認められない。</p>
<p>多様性は結構だが、少数意見を優先するのは民主主義に反しています。</p>
<p>北海道のいう多様性は、我々道民の意見を全て却下し、慰霊碑を破壊するという事。狂気の沙汰としか言いようが無い。</p>
<p>多様性、マイノリティを大事にするなら少数民族であるウイグル人のジェノサイドには加担しないですよ。ということは、ソーラーパネルはあり得ないですね。これ、大きな問題になります。道はマイノリティ差別、ジェノサイド加担をする気ですか。</p>
<p>ソーラーパネルを導入する＝北海道はジェノサイドに加担する気ですか。</p>
<p>あと、ジェノサイドソーラーパネルは絶対に反対です。</p>
<p>私もソーラーパネル設置反対です。今期の大雪あってパネル設置しようとする意味がわかりません。</p>
<p>花フェスタ2014って既に行っている事じゃないか。</p>
<p>新構想の説明は今はいらない。不愉快だ。</p>
<p>これらのことをやるのは構わないが、記念塔を壊す理由はないし、今は記念塔の解体をするかどうかの話なのだから余計なことに時間を使わないで。</p>
<p>今日は解体に至った経緯だけの説明を丁寧にすべきです。</p>

<p>北海道百年記念塔を中心に札幌・江別共営のオートキャンプ場並びにフェス会場の設営など、この地域に年間を通して人を集める事業をしてはと思います。</p>
<p>わざわざ作らんでもええわ。</p>
<p>来年からも気候の変動で今年の様な豪雪がやってくるようになるでしょうが、そんな中にソーラーパネル置いても、破損するのがオチでしょう。良くて雪にうずもれる。なぜそんな無駄な事をするのですか。</p>
<p>道の予算の中で将来世代の負担について様々な考えがあります。モニュメントも金額だけを考えれば将来世代への負担となりますが、百年記念塔と新モニュメントとの違いは何でしょうか。</p>
<p>多様性を理由に解体との事ですが、当時の方々は多様性を意識されてなかったという事でしょうか。設計者井口健氏は、北海道に関わる開拓者及びアイヌ民族に敬意を表し、慰霊を込めたデザインとしたとされていますが、北海道は多様性を理由にアイヌ民族を差別し、北海道開拓に従事した開拓者の慰霊碑も費用がないことを理由に破壊するという事です。慰霊碑を費用面で破壊するなど世界的に見ても恥の極み。道民に謝罪と賠償を求めます。</p>
<p>将来への具体的な策も無いのに負担軽減とはいかに。</p>
<p>いいじゃん、その金額でできるなら維持してくださいよ。新しい建造物を建てたって毎年お金がかかりますよね。それとも新建造物は維持費ゼロですか。</p>
<p>新建造物でも多額の経費がかかるから理由になりません。</p>
<p>新しいモニュメントを作ったところで維持管理費は発生します。現行の百年記念塔の維持が良いと思います。</p>
<p>記念塔こそ50年後の道民に引き継ぐべき物ではないですか。伝統や歴史を繋ぐことは容易ではありません。加えてこのゴタゴタな現状です。記念塔なしで先人たちの思いを継いでいくことは不可能です。</p>
<p>新建造物を作って、将来負担減るんですか。嘘つかないでください。</p>
<p>将来の30億円は水増しした金額。将来経費の30億円のうち、約10億円は平成30年に既に終了しているはずの改修費を計上している。平成30年に改修は行われなかったなのでその分を上乗せして多く見せている。つまり、解体する7億円+新たなモニュメント建設+記念塔関連の思い出作り事業(たぶん)10億円、、、、、、、、、、つまり、エレベーターなどを復旧させて作り直しても存続に20数億円ですむのに、解体だと30億円かかるという事か。</p>
<p>新たなモニュメントの予算はどの程度ですか。</p>
<p>新しいモニュメントの建設費や維持費はいくらぐらいでしょうか。</p>



新たに整備しようとする「百年記念広場（仮称）整備事業」にいくら予算を掛けるつもりなのか。現百年塔の維持費がかかるから解体と云いながら、新たな整備事業にお金をかけるのは矛盾するのではないのでしょうか。

時間の割に将来への策が何も示されていない。

30億では新建造物の方が結果、将来的に負担じゃないですか。

だから具体的な策を教えてください。

説明資料P4のモニュメントについて質問します。「未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うもの」とあり、先人の開拓の苦勞をしのび、感謝し記念するという現在のものとはまったく性格の異なるものにするというのは、エリア全体の構想に反するのではないですか。回答を望みます。

常識的に考えて、解体して新たなモニュメントをつくるなら100億以上になるだろうな。アイヌと同じで意味不明で金は数百億円。

コルテン鋼の耐用年数の200年ぎりぎりまで保全して、開拓の思いを宇宙開拓につなげるための「宇宙エレベータ」として、記念塔のデザインのまま大きいものを作る構想くらいあってもいいですよ。

5Gは要らないです。

ウポポイが既に有るので開拓のモニュメントのみにすべきと思います。アイヌは先住民族ではありません。日本人です。

変な意味のものを作らんで。

今回の説明会でお示した「北海道百年記念広場（仮称）の整備について」は、平成30年に策定・公表している「交流空間構想」の「今後の方向性」や「具体的な取組」に加え、アンケートやワークショップ等で寄せられたアイデアを基にイメージとして作成したものです。

記念塔については、錆片や部材の落下が続いている状況にあり、費用をかけてもなお、その構造上、老朽化の進行を完全に防ぐことが困難なため、公園を利用される方々の安全確保や将来世代の負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断いたしました。解体後の跡地に設置するモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとしていく考えです。

新たなモニュメントの設置を含めた広場整備の具体的な内容については、今後、民間企業からのご提案や道民の皆様からのご意見などを踏まえ、決定することとしていますが、決定にあたりましては、記念塔を維持した場合に要する経費を上回ることはないよう、耐久性や維持コストについて十分に配慮するとともに、民間資金や活力を最大限活用してまいります。

また、ソーラーパネルの設置など、いただいたご意見につきましては、今後の検討にあたり参考にさせていただきます。

解体反対。全くもって解体がやむをえないとは思えません。
解体に当たって何名に調査を行いどのような結果であったか、公開はされていますか。
解体したい理由を述べて下さい。解体やむなしではなく、解体したい理由をきちんと説明しないと納得などされませんよ。
金が勿体ないから先人のシンボルなんて壊せですか。早い話がそういうことですね。
取り壊し・解体は反対です。
様々な観点から検討して、解体に反対です。
本当に解体するのですか。
解体賛成の理由はなんですか。よろしければご教示ください。
何度も言いますが、解体するかどうか考え直しても全然問題ないと思います。強行する理由が全く分からない。
道職員の先輩方も関わった偉業を、後輩であるあなた方が破壊する事に良心の呵責はないのでしょうか。塔建設の費用に少なからず道民の先達の浄財がふくまれているのに、理由を付けて意固地に破壊するという事が信じられません。
北海道開拓者及びアイヌ慰霊碑を解体するなんて、道職員は誠に公僕の恥。明治維新からの開拓功労者に何と言いつけるのか。
道産子開拓の歴史はどう残すつもりですか。
高橋はるみ前知事が決めたからと言っても鈴木知事は覆せば済むことですよ。開拓民への敬意や歴史文化を繋ぐ気があるならそうすべきですし、しなければいけないです。
北海道百年記念塔を作られた意義を無視して解体解体と言う道庁さんに不信感しかありません。なぜそんなに解体したいんですか。錆、水漏れは限定的と言う話も聞きますが、おかしいですよ。
良くわからず説明会に参加させてもらいましたが、内容を知れば知るほど、不信感がつのりました。長年北海道に住み大好きな北海道が壊れていく感じがして悲しいです。
高橋はるみ前知事と鈴木知事のお考えが大きいと思いますが、その真意は何なのでしょう。
百年記念塔も夕張並みに棄損するつもりなのか。
安全確保が難しいなど嘘を言わないでください。

安全とか莫大な費用とか将来の負担とか言えばみんな納得すると思ったら間違いですよ。

素朴に子どもの頃から散策や遠望の目印だった、まさにランドマークの価値はお金には換えられないと思いますよ。

むなしい、いまだに町内会や町連や地域の学校や商工会に説明しましたかとか、、、。説明もお願いも命令も、、、勘違いだ、、、乗っ取られた行政は北朝鮮思想や共産主義者の通りにされるんだ、今回は「老朽化」の言い訳で解体。

解体が決められた事を知らず参加し、驚きしかありません。ショックです。

北海道百年記念塔存続を心より祈ります。

記念塔は、老朽化が進み、錆片などの落下もあることから、公園を利用される方々の安全を確保するため、平成26年7月から立入禁止としています。

道では、記念塔の保存・活用について、平成28年以降、これまで道民の皆様の様々なご意見を踏まえ、様々な専門家の方の知見を伺いながら時間をかけ、検討を重ねてきました。

その結果、外板パネルの穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に雨水の塔内部への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されますが、塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至りました。

塔からの錆片等の落下が続いており、その危険性が排除できない以上、所有者として、公園を利用される方々の安全確保等の観点から、解体もやむを得ないと判断したものであり、その跡地には、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担う新たなモニュメントを設置することとしています。

1のスライドの2で、エリア全体区分の所で、「老朽化などによる利用者数の減少」とあるが、老朽化が原因だと分析したのは誰で、根拠はなんだったのですか。博物館区分では、「機能強化や更なる魅力向上」とありますが、今までできなかったのに、どうしてこれから急にできるという話になるのですか。

道立自然公園野幌森林公園に所在する北海道博物館、北海道開拓の村及び北海道百年記念塔は、北海道百年記念事業の一環として整備した施設であり、開設以来、本道が積み重ねてきた歴史・文化や先人の偉業、そして自然に触れることができる場として、多くの人々に利用されてきました。

これらの施設は、現在、指定管理者制度を活用し、道が一体的に管理していますが、近年のレジャーの多様化や、開設から50年近く経過したことによる施設の固定化や老朽化により、開設当時に比べ利用者は減少しているところです。

北海道博物館については、平成27年に北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターとの統合により、北海道博物館としてリニューアルオープンしたところですが、今後においては、本道の中核的博物館、道民参画型博物館として、展示内容の充実はもとより、民間企業等と連携した企画展の取組や、国の補助金等を活用した展示資料のデジタル化や解説動画の作成など、更なる機能強化や魅力向上に取り組むこととしています。

百年記念塔について、案内板が今は新しくなっているが、昨年まで木枠などがボロボロでホワイトボードのようになっていて、表示が薄くなり見えなくなっていました。とても維持管理をしているとは言えませんでした。いつから案内板をそのままにしていたのでしょうか。案内板を最後にメンテナンスしたのはいつなのでしょう。

案内板の設置時期やその後のメンテナンス時期等は、現在保存している書類では確認ができませんが、令和3年8月に改修を行ったところです。

記念塔の解体を最終的に決定した空間構想の検討会議の3回にわたる議事録を入手しましたが、有識者の講話に耳を傾けるだけで「検討」の痕跡が見えませんでした。そこで質問ですが、記念塔を残す、残さないという二つの選択がある中で最終的に「解体もやむを得ない」と判断したのは、どの役職者で、それは何年何月のどういう場面だったのですか。

道では、記念塔の解体の判断に至った考え方をお示した「交流空間構想」の策定にあたり、庁内関係課で構成する検討会を設置し、平成30年5月、7月、8月の3回にわたって開催しました。

その上で、「交流空間構想」の素案を作成し、平成30年9月の北海道議会環境生活委員会に報告いたしました。

その後、9月11日から10月10日まで実施したパブリックコメントの結果などを踏まえ、「交流空間構想」の案を作成し、平成30年11月の北海道議会環境生活委員会に報告した上で、12月に決定・公表したものです。

塔の調査を依頼する時、どのようにして決められたのでしょうか。

平成18年5月に「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」が閣議決定されたことなどを踏まえ、道では、道が発注する公共工事及び公共工事に係る委託業務について、入札契約制度の適正化を図るため、平成19年8月に「入札契約制度の適正化に係る取扱方針」を策定いたしました。

記念塔の調査報告書の作成委託についても、この取扱方針に沿って、契約形態を入札方式とし、競争入札の実施により委託業者を選定しています。

説明会資料の12から14ページにかけて今後50年の維持管理の調査結果を示していますが、ここで述べられている「設計・施工の専門業者」は同時期に行われた百年記念塔解体工事の実施設計の受託業者と同じです。解体設計が実際に進行する中、解体を担当する業者が示す維持管理計画にどんな正当性があるのですか。

平成23、25年の調査や解体実施設計を担当したドーコンは北海道庁舎免震化や北海道議会庁舎の設計者であり、業務上北海道との結びつきが強く、業務遂行にあたっては客観的な視点を持つことは難しいと思います。客観的な立場にある建築学会に改めて調査を依頼し、客観的な視点での見解を得たうえで解体の是非を決定することはできないのでしょうか。

メンテを請け負った業者と解体見積もり出した業者が同じって何なんだ。新車買わせるために「もう修理無理ですね」というディーラーと同じやり方じゃないか。

道では、道が発注する公共工事及び公共工事に係る委託業務について、入札契約制度の適正化を図るため、平成19年8月に「入札契約制度の適正化に係る取扱方針」を策定しています。

記念塔の調査報告書の作成委託及び記念塔解体工事に係る実施設計についても、この取扱方針に沿って競争入札を実施し、業者を選定しています。

私達は、昨年クラウドファンディングを行い、新聞に意見広告をしました。518人、560口の寄付金をいただきました。この事を、道はどのように捉えていますか。

1 1980年から、建築学会の管理計画が10年毎に行われてきましたが、2011年から、D社に委託されました。学会が外された理由は为什么呢。

2 2017年「記念塔維持管理計画策定業務」を6社の指名競争を行い、予定額8,278,000円を、250万円で、D社が落札しました。この金額は正当な金額でしょうか。

3 2020年10月「記念塔解体工事設計」公募型プロポが行われましたが何社の応募がありましたか。1社でしたか。特定は、やはりD社でした。即ち、専門家はD社1社で2011年から続いています。これは異常な関係と思います。建築には、幾つかの団体があります。第三者を入れるべきと考えますが、お答えください。また、2020年の報告書は、2017年の報告書と同じ内容で、単価を入れ替えただけで、1,100万円の設計料とは、どの点が反映されたか、御提示下さい。

交流空間構想では、解体後（発展的継承）としての新たなモニュメントを中心とする賑わいある広場を整備する、とあります。これはどのようなものか。どれだけのコストをかけるのか。提示がありません。これでは解体ありきで、保存との比較ができません。順序が逆ではありませんか。

1. 管理計画について質問します。1980年から建築学会で行われてきましたが、2011年から民間委託となった理由をお答え下さい。

2. 百年記念塔維持管理業務について質問します。2017年10月の指名競争入札の落札金額は妥当だったのでしょうか。予定額と落札額に大きな乖離がある理由をお答え下さい。

3. 百年記念塔解体工事設計業務について質問します。こうした場合、公共の第三者機関である各建築団体に協力を依頼しない理由についてお答え下さい。

#### ○記念塔の調査報告書の作成業務について

平成18年5月に「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」が閣議決定されたことなどを踏まえ、道が発注する公共工事及び公共工事に係る委託業務について、公正性・透明性・競争性の確保など、入札契約制度の適正化を図るため、道では、平成19年8月に「入札契約制度の適正化に係る取組方針」を策定しています。

記念塔の調査報告書の作成につきましては、従前、随意契約を締結の上、業務委託を行ってきましたが、上記取組方針の策定後においては、契約形態を入札方式とし、一般競争入札を実施した上で、業者を選定しています。

#### ○2017年の調査報告書に係る契約金額について

2017年の開拓の村の委託調査費なども含めた予算額は、827万8千円となっています。そのうち、塔の調査報告書の作成に係る入札予定価格は292万7千円となっており、入札を実施した結果270万円で契約を締結したものです。

#### ○塔の解体工事に係る実施設計について

上記1のとおり、道が発注する公共工事及び公共工事に係る委託業務については、「入札契約制度の適正化に係る取組方針」に基づき、事務を執り進めることとしており、解体工事に係る実施設計業務につきましても、公募型プロポーザル方式で公告を行い、ヒアリング審査を経て、業者の選定を行ったところです。

なお、2020年に調査報告書は作成しておりません。

#### ○クラウドファンディングの実施結果について

道では、記念塔の維持管理にあたり、定期的に専門家による現況調査を行い、保守管理計画を策定した上で、老朽箇所の修繕や大規模改修工事を実施してきましたが、近年、錆片や部材の落下等が続いていることから、様々な専門家の知見を伺いながら、安全性の確保について、時間を

かけ、慎重に検討を重ねてきました。

その結果、塔の構造上、雨水の浸入など老朽化の進行を完全に防ぐことは難しく、公園を利用される方々の安全を確保するためには、塔の解体もやむを得ないとの判断に至り、これまで地元住民の皆様や存続を求める団体の方々などに対し、この度の説明会も含め、様々な機会を通じて、道の考え方について、できる限り丁寧な説明に努めてきたところです。

記念塔の存続を願う方々の思いや、様々な主張に対しましては、真摯に受け止めながら、今後とも道の考え方について、ご理解いただけるよう努めてまいります。

#### ○新たなモニュメント等について

解体後の跡地に設置するモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとしていく考えです。

新たなモニュメントの設置を含めた広場整備の具体的な内容については、その所要額も含め、今後、民間企業からのご提案や道民の皆様からのご意見などを踏まえ、決定することとしていますが、決定にあたりましては、記念塔を維持した場合に要する経費を上回ることはないよう、耐久性や維持コストについて十分に配慮するとともに、民間資金や活力を最大限活用してまいります。

説明会資料の7ページで、これまで実施してきた管理計画が紹介されていますが、平成26年1月31日付けの「平成25年度北海道維持管理計画策定調査報告書【第5次】」を隠すのはいかなる意図ですか。この5次計画の方向性に従って現在記念塔が管理されていることを踏まえれば「隠匿」との批判も免れません。

道では、完成から10年を経過した昭和55年以降、概ね10年ごとに専門家の方々による塔の現況調査を実施し、修繕など対応すべき事項と費用を示した10年間の保守管理計画を策定しています。

調査につきましては、昭和55年度、平成2年度、平成13年度、平成23年度、平成25年度、平成29年度及び令和3年度に実施していますが、説明会では、少なくとも10年ごとに調査を実施していることをお示しするため、資料のとおり表記したところです。

平成25年度以降の調査報告書につきましても、情報公開条例に基づく開示請求等に対して、適切に対応しているなど、ご指摘のような隠匿しているという事実はございません。

ドーコンさんに解体を依頼する前に伊藤組さんに維持に必要な経費を再試算お願いしたい。

維持管理費の算定につきましては、平成29年及び平成3年ともに㈱ドーコンに業務を委託し、同社において、伊藤組土建㈱と検討委員会を立ち上げて行ったものと承知しています。

平成30年の台風で、1.5メートルの金属片が落下したとの話がありましたが、それが公表されたのが令和2年。それが本当なら、当時ニュースで大事(おおごと)になっているはず。なぜ報道しないで隠していたのですか。

台風による落下物の報道が、当時全くなかったのに。数年たってからいきなり道が公表する。なぜ隠ぺいしていたのですか。

平成30年の台風21号により、記念塔の一部部材が立入禁止区域内に落下する被害が発生しました。当時の報道の状況については承知していませんが、被害の発生については、北海道議会における議論で明らかにしており、ご指摘のような隠していたという事実はございません。



当時、道民からの寄付金半分が入っているが、大半は企業から、とこの説明書はしているが虚偽。大半は個人献金。個人献金で現在価格にして30万円以上も献金された方もいる。道は当時の献金者に賠償プランを明確に説明する責任がある。

記念塔の建設工事費4億9,368万円のうち、寄附金は2億6,331万6千円となっており、その内訳は、「商工鉦・農林水関係団体 2億102万9千円」「市町村 4,814万4千円」「個人 1,061万2千円」「協賛（広告） 353万1千円」となっています。

このため、道では、「交流空間構想」の策定の際には、その内容について、道のホームページなどで広く周知するとともに、パブリックコメントを通じて、幅広くご意見を伺ったところです。

また、北海道商工会議所連合会などの経済団体や北海道市長会、町村会をはじめとする道内各自治体、地元の市役所や地元町内会の方々に、ご説明させていただいたところです。

<p>コストだけで先人の遺産を解体するのは非常に疑問です。開拓100年を記念して建てた塔。一度壊してしまえばその歴史、先人たちの思いは戻って来ない。文化財的価値をどのようにお考えですか。</p>
<p>きちんと文化財指定して文化財保護法により百年記念塔を保存することこそ大切では有りませんか。</p>
<p>どんな建物でも、建てられた瞬間に老朽化は始まる。歴史に残したい大切な建物なら、文化財登録してでも残そうとするよね。</p>
<p>道庁は百年記念塔を50年保全するための見積もりを30億円と計上しているのに、前回の説明会で「老朽化で有形文化財登録を断念した」と答えましたよね。見積額を計上できるのになぜ保全を断念したのか。</p>
<p>大阪の万博の太陽の塔はきちんと文化財指定して保存しています。百年記念塔は文化財指定出来ない理由は無いと思います。</p>
<p>文化財指定の登録をまたやればいいじゃないですか。普通何度も通すために出しますよね。</p>
<p>繰り返しますが、解体するか否かは有形文化財の申請を行い、審査を受けてから検討すべきではないでしょうか。</p>
<p>最低限、有形文化財の申請にチャレンジしてから判断してください。</p>
<p>解体がやむを得ないなら、見積もりの計上はできないですよ。30億円なら有形文化財登録申請でカバーできますよね。</p>
<p>将来の負担と資料に書いていましたが、具体的にどのような負担なのですか。費用なら有形文化財申請すれば、国からお金が出ますよね。「老朽化で断念」との一点張りの答えですが、30億円出せば50年保持できる見積もりを立てている以上、詭弁としか思えません。</p>
<p>百年記念塔はコルテン鋼で作られた塔です。もしかしたら、コルテン鋼で作られた構造物の中で世界一の規模ともいえると思います。その世界一ともいえるモニュメントを、なぜ観光の財産として活用するという考えは、道庁にはなかったのでしょうか。</p>
<p>北海道文化局は文化保存啓蒙の為に何もしてないですよ。</p>

百年記念塔の今後のあり方について、幅広くご意見を伺う中で、記念塔に関しては様々な考え方があり、文化財の保存・活用等に専門的な知識を有した方から、「文化資源として残すべき」とのご意見があったところです。

このため、道では、記念塔を文化資源として保存・活用する可能性について、北海道教育委員会を含む庁内関係課で構成する検討会での議論はもとより、専門家の方々の知見も伺いながら「展望室への立入を可能とする場合」や「モニュメントとして維持する場合」に加え、「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」などにつきまして

検討を行いました。

記念塔に関しては、その歴史的、文化的価値は否定しないものの、今後、一定の費用を投じてもなお、塔の構造上、老朽化の進行は止められず、太陽の塔など他の建造物とは異なり、錆片や部材の落下などが続いている状況を踏まえると、人的被害をはじめ、塔の周辺に影響を及ぼす危険度が増しており、公園を利用される方々の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、文化資源として保存・活用することは難しく、解体もやむを得ないと判断したものです。

この責任者は知事ですか。
鈴木知事から道民に何度も何度も説明をしていただきたい。
鈴木知事は何故説明しない？この人よりはマシなのでは。
日本人が護るべきは日本の歴史、文化、伝統です。この三点を、もっともらしい欺瞞に満ちた調査により、切り捨てる判断を取った事に対する責任者、そして鈴木知事の面持ちをお伺いしたく存じます。
この責任者は誰ですか。
大きくは責任者は鈴木知事です。
早計過ぎませんか。このような大切なことは、鈴木知事を交えて、今一度話し合いたく思います。
このまま解体が進むことは、絶対に避けてほしい。鈴木知事にも参加していただきたいです。そして、直接伺いたい事がたくさん出てきました。
鈴木知事は誠意ある回答を。
道民同行の上、見積調査などを取り進めて下さい。道民の大切な物を勝手に壊さないでください。道民の信任を得ていると思わないでください。
こんな対応しかできないようでは、一事が万事信用できない。知事は北海道をどんな場所にしたのでしょうか。ただの場所ですか。 あなた達は取り返しのつかない事を実行しようとしているのですよ。
「取り返しのつかない」決断は、そんなに簡単にしてはいけませんよ。
時代は流れて考えも変わる。構想から6年経てば保護保守の考えに変わるのも自然の流れと思いますが。なぜ解体ありきなんですか。
要は、金にならない記念塔を解体し、解体費以上に費用を掛けた新構想でビジネス展開し、商業施設として利用しようとお考えでしょうか。功利主義に則った場合はもっともですが、我が国は地政学的、または歴史的にも保守思想が大切にされてきました。お金ではあらかずことの出来ない伝統、文化としての価値を軽視し、躊躇なく破壊しようとする道の態度は、明らかに我が国の国柄とは相反するものであり、欺瞞に満ちていると言わざるを得ません。50年後、100年度の未来、歴史に断罪されるような愚行はお控えいただきたいと存じます。質問といたしましては、今後の建設的な議論を深める場所や機会を設ける、または増加する見込みはおありであるのか、ご教示願います。
議会で解体を決めた、道民には文句を言わせない、ならば、議会で撤回してもらおうほかに道はない。

時に政治も誤った判断をします。一度決めたから突き進むしかないのではなく、再検討することも必要です。再度検討することをお願いするのみです。それが透明性の高い、客観的な判断をできる検討委員会であることを望みます。

北海道の職員や利権屋の為ではなく、後世を引き継ぐ北海道そして日本の子供達のことを一番に考えて欲しい。そこがスタート。だから今からでも考え直してほしい。

解体自体知らない人の方が殆どです。高齢者はネット環境に適応できない人も多い中で、高齢者への無配慮ですか。ネット環境ない人は無視ですか。

道民の方でこの説明会があること知ってる人なんてごく僅かですよ。もっと広く告知することを道民の一人として望みます。

道では、記念塔のあり方について、平成28年以降、これまで、様々な分野の専門家や有識者のご意見を伺うとともに、道民ワークショップや出前講座の開催、さらには施設を利用されている方や全道の社会人及び大学生を対象としたアンケート調査などを通じて、道民の皆様から寄せられた様々なご意見を踏まえ、時間をかけ、検討を重ねてきました。

その上で、記念塔解体の判断に至った道の考え方をお示しした「交流空間構想」を作成し、パブリックコメントを経るとともに、北海道議会にご報告申し上げ、多くの議論をいただいた上で、道として決定したところです。

道としては、「交流空間構想」でお示しした道の考え方について、これまでも様々な機会を通じて、できる限り丁寧な説明を行ってきたところですが、地元住民の皆様の思いや存続を求める団体の方々の主張を真摯に受け止め、改めて、道の考え方について説明する場を設けることとし、この度の説明会を開催したところです。

なお、説明会の開催結果につきましては、知事にも報告しています。

今後におきましても、今回の説明会の資料や会議録、質疑に対する回答について、道のホームページで公開するなど、道の考え方をご理解いただくよう努めるとともに、今回参加できなかった方々をはじめとする道民の皆様から寄せられる問い合わせに対し、丁寧に対応してまいります。

平成30年4～6月に行った施設利用者に対するアンケートでは、存続してほしい声が59%ありましたが、道民の解体への意見は反映されていないとのことでしょうか。

説明会資料P2のアンケート数は人口に比して著しく小さいと思います。ワークショップ、出前講座での出席者数を公表してください。

道では、記念塔のあり方について、専門家や有識者の方々の知見を伺うとともに、道民の皆様から幅広くご意見を伺うこととし、道民ワークショップを3回（計89名）、出前講座を2回（計33名）開催するとともに、施設を利用されている方や全道の社会人及び大学生を対象としたアンケート調査（計885名）を実施しました。

施設を利用される方々においては、記念塔の存続を希望する意見が多く、一方で、全道の社会人及び大学生に対するアンケート調査では、解体もやむを得ないとする意見が多いなど、道民の皆様の間には様々な考え方がありました。

このため、道では、塔の安全性について、専門家の方々の知見も伺いながら、保存・活用について検討を行いましたが、最終的に、塔の構造上、老朽化の進行を完全に防ぐことは難しく、公園を利用される方々の安全確保などの観点から、解体もやむを得ないと判断いたしました。

北海道開拓100年を記念して建設された北海道百年記念塔。しかもその半分以上が道民の寄付によるものです。公共のものであり、地域のシンボルでもある記念塔の解体には現代に生きる者として、先人たちの思いを十分に考慮し公明正大な判断が求められると思う。恣意的なものではなく、客観的なデータに基づく判断も必要であると考えます。

- ① なぜ現状復帰管理計画や維持管理計画が50年と超長期に及ぶものであるのか。過大に計上させようとしているとしか思えないのですが。
- ② その計画の中身が、単純な掛け算や重複計上も散見される。5年で全交換を行いそれを10回行うことも見られた。そのような改修工事が必要ですか。中身の精査を行っていますか。
- ③ 平成23年以降維持管理が放棄されたように見えますが、すでにその時から解体を決定し腐食等が進むようにしたのではないですか。

立入禁止区域を設定した2014年、道は既に解体をするとの考えに移行していたのでは。

1 道では、平成30年に北海道命名150年の節目を迎えるにあたり、北海道博物館、北海道開拓の村及び北海道百年記念塔の百年記念施設について、今後の50年、100年先も展望しながら、次の世代にどのように引き継いでいくべきか検討を行ったところです。記念塔については、過去に大規模修繕を含む維持管理費に多額を要していたこと、老朽化の進行により錆片の落下等が発生していることなどを踏まえ、将来を見据え、今後50年間の維持管理費を算定したところです。

2 記念塔の現況調査及び今後の保守管理計画の策定を委託した設計・施工の専門業者においては、部材の設置場所や腐食状況などを踏まえ、踊り場床板や外部ルーバー下端見切板の修繕を5年サイクルで行うことなどを内容とした保守管理計画を策定したところです。

積算内容については、踊り場床板の修繕では、「新規材料・床板撤去復旧費（原状復帰の場合）」又は「腐食部部分補修（現状維持の場合）」、外部ルーバー下端見切板の修繕では、「鋼材費・工場加工費、取付費」となっていますが、新規部材の製作・取付を行わない場合においても、腐食状況に応じた防錆措置や溶接補強を講じる必要があり、新規部材の製作・取付と同等程度の費用を要する見込みとなっています。

3 道では、概ね10年ごとに専門家の方々による塔の現況調査を実施し、保守管理計画を策定した上で、老朽化した箇所や改修工事を計画的に行ってまいりましたが、平成8年9月頃から塔の周辺地上部の数カ所で耐候性高張力鋼板の縁部が腐食して剥離落下しているのが認められたことから、平成9年に建築家の専門家である(社)日本建築学会北海道支部に塔の現況や今後の対応について調査を依頼しました。

その結果、塔の構造上、外板周辺部の錆の進行と剥落について、その程度を軽減する処置はとれるにしても、錆や腐食の進行など、老朽化の進行を完全に防止することは困難であり、塔全面の外板を取り替えざるを得ないが相当な費用を要すること、このため、塔への立ち入りを認めない処置も合わせて検討すべき時期にきているとの指摘を受けたところです。

道では、次善の策として、錆の落下防止を主目的にして物理的に進行錆を落とし、今後の錆の進行を遅延させる措置を平成11年に3億4,500万円かけて修繕を行うとともに、その後においても、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じ、専門業者とも協議をしながら修繕を行うなど、所有者として適切な維持管理に努めてきたところです。

平成23年度に策定した保守管理計画に基づき、平成24年度には主体鉄骨の補修や展望室天井の防錆措置などを実施しましたが、平成26（2014年）年7月に、塔内部において相当量

の錆片の堆積や、外板ルーバー下端見切板に腐食による穴や鉄板の浮きが確認され、専門業者による緊急調査を行った結果、更なる錆片の落下や部材の剥離・落下も懸念されたことから、平成26年度からは、公園利用者の安全確保が何より重要との考えに基づき、階段踊場の床板の改修とルーバー下端見切板の改修を優先して実施したところです。

また、塔の解体方針の決定後においても、必要に応じて点検・補修を行ってきたところであり、塔の所有者として適切な維持管理に努めてきたところです。



「記念塔はその構造上雨水の浸水を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策が難しく、錆の発生や剥離を完全にふせぐことができない」とのことだが、構造上とはどういう意味か。完全閉鎖空間でないゆえに当然若干の浸水はあるだろう。問題はその程度である。雨水の浸水がどの程度か。平成29年調査報告書を入手したが、物理調査の痕跡は無かった。雨水の浸水が問題というなら、湿度変化等の計測データを示すべきである。錆片の下落があるというならその発生記録、老朽化が進んでいるというなら不具合箇所検出と修繕実績の記録を示すべきである。

外板に使用されている耐候性高張力鋼板は、無塗装で使用した場合には、数年間で表面に密で硬い酸化膜（安定錆）が形成され、腐食の進行が防止される特色があるが、安定錆の形成のためには、表面が外気にさらされて適度に乾湿が繰り返され、風雨によって表面に浮いた錆が洗い流されることが必要とされています。

記念塔の場合、全般的には安定錆が形成されているものの、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない外板と縁アングルの接合面において、錆や腐食が進行し、錆片の落下等が発生しています。

平成9年に実施した日本建築学会北海道支部による調査では、外板縁部の接合部分は、複雑な形状から雨水による水湿の供給が継続されており、安定錆とならず、経年とともに積層状に錆が増大、剥離した錆片が地上に落下・飛散する状況にあること、錆の進行と剥落の程度を軽減する処置はとれるにしても完全に防止することは困難との結果が示されています。

また、平成26年7月に実施した塔内部の定期点検において、ボルトの緩みや各階の梁等の上部に相当量の錆片の堆積が認められ、これらの修復、除去作業において、大きいもので約10cm程度の錆片の落下や、開口部下部の鉄製の見切板に、錆による穴あきや浮きが確認されたところです。

落下した錆片の一つひとつについて、正確な個数や大きさは把握していませんが、記念塔内部への立入禁止措置を講じた以降においても、巡回時等に、塔の内部・周辺に錆片の堆積等が確認されており、また、平成30年の台風第21号の通過による一部部材の落下や、令和3年6月の暴風雨による外壁の一部剥離などの被害が発生しています。

建築技術等の質問ではないのですが、北海道庁は北海道の開拓の歴史や野幌森林公園の設置意義、また百年記念塔の事を教育現場でどのように伝えてましたか。また北海道の観光関連の現場に百年記念塔の事をPRしていたのでしょうか。それらが欠けていたらちゃんと維持するという意識は元からなかったように思えますが。

本道の開拓の歴史や百年記念塔を含めた野幌森林公園の設置意義などにつきましては、道のホームページなどに掲載していますが、教育現場において、具体的にどのように伝えていたのかについては、承知していません。

また、道では、北海道博物館等の指定管理者を通じて、野幌森林公園に所在する各施設のリーフレットや行事・普及啓発用のチラシを作成・配布するとともに、新聞社や放送局等の報道機関やホテル、旅行会社、観光案内所等に対して施設に係る情報提供や集客に係る営業活動を行うほか、教育旅行対象の商談会等において誘致等の活動を行っています。

これだけしか変わらないなら「残す」一択だろ。

解体の費用は本当か嘘か知らないけど、算出してますが、残した場合の価値は出さないのですか。

将来世代に残さないことが負担を増やすことになるんです。

無くす方が将来に負担を残す。

今後50年で28億円で塔が維持されます。モニュメントや太陽光などであれば、28億かからないとのことでしょうか。単年度で7億2千万かかります、それは負担ではないでしょうか。

将来世代の負担とは、どのような負担を言っているのか、具体的な負担を説明してほしいです。文化的価値は否定しないとのことだが、金額のことを述べるのであれば、今までは負担としか考えていないということでしょうか。

今後50年間、記念塔を維持管理するための経費（将来世代の方々にも負担していただくこととなるもの）につきましては、設計・施工の専門業者の積算によると、塔への立入を可能とする場合は、30億7,375万円、モニュメントとして維持する場合は、28億4,090万円と見込まれています。

また、百年記念塔の解体工事に係る予算額は、工事監理費も含め、6億4,626万9千円となっています。

維持管理に上記の経費を費やしてもなお、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、錆片や部材の落下などが続いている状況を踏まえると、人的被害をはじめ、塔の周辺に影響を及ぼす危険度が増しており、公園利用者の安全確保や将来世代の負担軽減の観点から、解体もやむを得ないものと考えています。

もう話しにならない。老朽化なら記念塔より古いものを全部壊せ。

道の所有する建物で「構造上、完全に老朽化しない」建物を教えてください。

解体はやむをえなくないです。そんな理由がまかり通るなら、全ての建造物は取り壊しですよ。エッフェル塔取り壊すの。それぐらい百年記念塔は大事な建造物なんです。理由は、ただのこじつけです。

百年記念塔は、乾湿を繰り返すことにより、安定錆を形成させ、腐食の進行を防止するという特徴を有する耐候性高張力鋼板を無塗装で外板に使用しているところに、他の建造物等との大きな違いがあります。

平成9年に実施した日本建築学会北海道支部による調査におきましては、外板縁部の接合部分は、複雑な形状から雨水による水湿の供給が継続されており、安定錆とならず、経年とともに積層状に錆が増大、剥離した錆片が地上に落下・飛散する状況にあること、錆の進行と剥落の程度を軽減する処置はとれるにしても完全に防止することは困難との結果が示されています。

道では、これまで専門家等による塔の現況調査結果に基づき、保守管理計画を策定の上、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じた修繕を行うなど、所有者として適切な維持管理に努めてきましたが、他の建造物と異なり、塔の構造上、老朽化の進行が避けられない中、錆片や部材の落下などが続いている状況を踏まえると、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと考えています。

活性化懇談会の有識者たちは、記念塔にはどれくらいの頻度で行ったのでしょうか。現地視察はどれくらい行ったのでしょうか。

有識者とはどんなメンバーですか。名前を公表していただきたい。

回答を作成した、専門家の方の名前を公表していただきたい。

過去に相談した専門家の氏名を公表して、その考えの概要も示して下さい。

専門家の調査会はどのようにして決められたのですか。

専門家が言えばなんでも通るんか。

記念塔を含む百年記念施設のあり方を検討するため、平成28年10月に設置した「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」において、同年11月に視察を実施しており、記念塔に関しては、「モニュメントでありシンボルタワーであるが、躯体が朽ちていることを実感し、維持していくのは相当危険と実感した」、「これから50年、80年残せるか考えるとかなり厳しい」などのご意見があったところです。

また、記念塔のあり方については、建築鋼構造や構造力学・地震工学、建築構造学など学識者の方々や、専門コンサルや設計・施工の専門業者、外板の素材メーカーなど、様々な専門家の方々の知見を伺いながら、塔の保存・活用について、時間をかけ、慎重に検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないとの判断に至ったものです。

なお、「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」の構成、「交流空間構想」の検討に当たって、ご意見を伺った企業・団体、学識者等は次のとおりです。

#### <北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会の構成>

氏名	所属・職名
臼井 栄三	(国)北海道教育大学岩見沢校 特任教授
戎谷 侑男	(株)シービーツアーズ 代表取締役社長
佐々木亮子	(有)アールズセミナー 代表取締役
中田美知子	(学)札幌大学 客員教授
西 吉樹	(一財)北海道歴史文化財団 業務執行理事法人本部長
西山 徳明	(国)北海道大学観光学高等研究センター センター長
山崎 幹根	(国)北海道大学大学院法学研究科・法学部 教授

#### <「交流空間構想」の検討に当たって、ご意見を伺った企業・団体、学識者等>

##### ○企業・団体等

- 株式会社ACTNOW (資金調達)
- 厚別区PTA連合会 (公園利用者)
- 株式会社アトリエ・モリヒコ (古民家活用)
- 株式会社KITABA (公園デザイン)
- 株式会社キタバ・ランドスケープ (公園デザイン)
- 有限会社クンスト (芸術家)

NPO法人旧小熊邸倶楽部（古民家再生）  
ジェイ・アール北海道バス株式会社（交通事業者）  
障がい当事者講師の会すぶりんぐ（公園利用者）  
新日鉄住金株式会社（素材メーカー）  
武部建設株式会社（古民家再生）  
伝統建築技能集団建築ヘリテージサロン（技術承継）  
株式会社日本政策投資銀行北海道支店（資金調達）  
株式会社北洋銀行（資金調達）  
株式会社北海道銀行（資金調達）  
一般社団法人北海道建築士会（技術承継）  
株式会社北海道チャイナワーク（インバウンド観光）  
北海道文化審議会委員（有識者）  
北海道立総合博物館協議会委員・特別委員（有識者）  
認定NPO法人ポロクル（交通事業者）  
株式会社MammyPro（公園利用者）

○学識者

札幌市立大学デザイン学部 羽深 久夫 教授（歴史的建造物の保存再生）  
北海道科学大学工学部 田沼 吉伸 教授（建築鋼構造）  
北海道大学 石山 祐二 名誉教授（構造力学、地震工学）  
北海道大学大学院工学研究院 菊地 優 教授（建築構造学）  
北海道大学大学院文学研究科 佐々木 亨 教授（博物館学）

北海道開拓博物館で、開拓に関する展示物を全て撤去。新撰組で有名な永倉新八の書状を撤去しました。百年記念塔を解体。最終的には北海道開拓の村の解体ですね。

記念塔の次は、歴史的資料のカイザン。

幕末、明治維新から続く開拓功労者になんと説明するのか…島義勇、岩村判官、西郷従道及び屯田兵、数多くの開拓功労者の慰霊碑を破壊します、ってはっきり言えや。多様性とか濁して使うな。

誰に操られているのですか。誰が主導してこの解体を進めているのですか。

北海道開拓に携わった屯田兵の大半は後に日露戦争に従軍された。百年記念塔は北海道だけではなく近代日本の戦没者慰霊の慰霊碑でもある。不敬の極み。

百年記念塔の北海道開拓の物語をなくしてはいけません。

北海道百年記念塔は北海道だけの問題では無いです。ここが解体されたら日本中で色々な歴史改ざんが行われます。

本当の解体理由は6年前の日ハムの千歳空港の「北海道は開拓者の大地」の撤去と同じ構図ではないでしょうか。

今生きる人達には子孫に恥ずかしくない行動が求められています。北海道百年記念塔解体は先祖様を冒瀆し子孫に恥じる行為だと思うのですが。なぜ出来ることをして北海道百年記念塔を子孫に伝えようとしらないのです。

なぜこれだけ疑問のある北海道百年記念塔解体に道庁職員や道議会議員は疑問を持たないんですか。ご先祖さまはいないのですか。

記念塔は、長く道民の皆様に親しまれてきており、道としては、その保存・活用について、様々な専門家の方々の知見を伺うとともに、道民の皆様からのご意見を踏まえ、慎重に検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは難しく、塔からの錆片や部材の落下の危険性を排除できないため、公園を利用される方々の安全確保や将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断したものであり、開拓の歴史を否定するものでも、歴史を改ざんするものでもありません。

解体後の跡地に設置するモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐこととしています。

新しいモニュメントや広場整備には国の支援や補助、PFI、クラファンなどの民間資金やノウハウを最大限活用するのに、記念塔の維持管理には活用できないのはなぜでしょうか。また、赤れんが庁舎はメンテナンスして維持していますが記念塔との違いは何でしょうか。現状の記念塔の状態がかなり危険と判断している割には現場はロープ1本で立入禁止としているのですが矛盾を感じます。また、漏水がかなりあるようですが夏型結露の影響が大きいと思いますがいかがでしょうか。夏型結露の解消にはさほどのコストはかからないと思いますがいかがでしょうか。新たなモニュメントの費用も明かされていませんし、そのモニュメントの維持費用もわからないので比較しようもありません。維持管理費用の算出根拠も疑問符が付きます。

将来負担を軽減するなら、国の支援・補助制度やPFI、クラウドファンディング等の民間の資金・ノウハウ等を最大限活用すればよいとは思わないでしょうか。

利用者保護なんて聞いたことも見たことも無い。ただ立ち入り禁止にただけが策と言えるんですか。

先日も百年記念塔へ行ってきました。危険と言う割には立入禁止の看板とロープ一本でした。また掲示板には解体という説明はありませんでした。言うなれば危険性が薄く、解体は道民に知られたく無いということでしょうか。

今後とも記念塔を維持するためには、毎年1千万円程度の維持管理費に加え、大規模改修に要する経費も必要となるところです。

クラウドファンディング等の民間資金の活用については、様々な事例があると承知していますが、記念塔の維持管理のためには、長期にわたって相当額を確保し続けなければならないことから、資金調達手段としては、難しいものと考えております。

しかしながら、平成26年7月、塔内部において相当量の錆片の堆積や、外板ルーバー下端見切板に腐食による穴や鉄板の浮きが確認されたため、専門業者による緊急調査を実施した結果、更なる錆片の落下や部材の剥離・落下も懸念されたことから、塔内部への立入禁止措置を講じることとし、バリケードや看板、ロープを設置するとともに、塔の周辺や内部の巡回警備を強化するなど、公園を利用される方々の安全確保を図ってきたところです。

これまで、部材の落下や外壁の一部剥離などが発生した際には、速やかに、その処置にあたるるとともに、暴風雨や地震発生時には巡回を強化してきており、今後とも公園を利用される方々の安全確保に努めてまいります。



ドーコンさんは参加していないのですか。

北海道職員はこの説明会に参加していませんか。

今回の説明会は、道として、これまでの経緯や記念塔の解体の判断に至った考え方、今後の広場整備の方向性について改めて説明するため開催したものであり、道以外の団体等は参加していません。また、参加対象者については、特段の制限を設けなかったところです。

年間800万円の維持管理費から、年間6,000万円に至る経緯を説明して下さい。

平成22年より大規模修繕がされていません、この時から解体を決定していたのですか。リーマンショックや東日本大震災がありました、このような惨事を利用して解体を進めようとする「ショックドクトリン」としか思えません。

当時の維持管理費、年間800万円は継続的な維持管理をしようとは思えない値段です。当時、持統を道は諦めたのではないのですか。百年記念塔を解体し新百五十年の建設を高橋はるみ知事と伊藤組土建は考えていたのではないのでしょうか。

記念塔の老朽化の現状や過去の修繕の実績などを踏まえると、塔を維持し続けていくためには、毎年の維持管理費（平成25年度時点で800万円）に加え、大規模な改修工事を20年ごとに実施する必要があるところです。

今後50年間、塔を維持管理するための経費につきましては、設計・施工の専門業者の積算によると、塔への立入を可能とする場合は、毎年の維持管理費5億8,815万円（年間1,307万円×45年）と大規模修繕費22億1,850万円（1回7億3,950万円×3回）、エレベーター修繕費1億7,860万円（1回8,930万円×2回）、一般客飛来落下防止通路整備及び池外周立入禁止フェンス設置費8,850万円の合計30億7,375万円、モニュメントとして維持する場合は、毎年の維持管理費5億2,380万円（年間1,164万円×45年）と大規模修繕費21億2,550万円（1回7億850万円×3回）、エレベーター修繕費1億7,860万円（1回8,930万円×2回）、池外周立入禁止フェンス設置費1,300万円の合計28億4,090万円と見込まれています。

説明資料P3の「開拓の村」の今後の方向性の記載について質問します。「観光拠点古民家再生等人材育成拠点」とはなんですか。そもそも日本語としてまったく意味不明と思うのですが。

開拓の村については、宿泊や着付け等の体験型プログラムの充実や民間企業と連携した発信力の強化などにより観光拠点として活用するとともに、展示建造物の保存活用、修繕業務により古民家再生に係る道内技術者の技術力向上やヘリテージマネージャー研修など人材育成拠点として活用することとしており、正確には「観光拠点、古民家再生等人材育成拠点」という表現になります。

アンケート、学生向けと一般向けで質問内容を変えたのはなぜですか。

道では、記念塔のあり方について、専門家や有識者の方々の知見を伺うとともに、道民の皆様から幅広くご意見を伺うこととし、道民ワークショップや出前講座の開催に加え、施設を利用されている方や全道の社会人及び大学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

平成30年4月から6月に、北海道博物館や開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館にアンケート用紙及び意見箱を設置し、アンケート調査を実施していますが、対象者が施設を利用されている方々であることを踏まえ、百年記念塔については、「原状復帰（利用者の立入りを再開し、展望塔として維持）」、「現状維持（利用者の立入禁止を継続し、モニュメントとして維持）」、「除却して、モニュメント（将来世代への負担軽減に配慮）を設置」、「除却（新たなモニュメントは設置しない）」の4択からご回答いただいたところです。

また、同年5月から6月には、全道の社会人及び大学生を対象としたアンケート調査を実施していますが、対象者については、居住地が全道各地となり、北海道博物館や開拓の村、百年記念塔を知らない方がいることも予想されたため、施設利用者のアンケートより少ない選択肢が望ましいと考え、百年記念塔については、「費用がかかっても、道民の誇りとして残すべき」、「費用がかかるのであれば、解体もやむを得ない」の2択からご回答をいただくこととしました。

なお、施設を利用される方々においては、記念塔の存続を希望する意見が多く、一方、全道の社会人及び大学生に対するアンケート調査では、解体もやむを得ないとする意見が多い結果となっていますが、施設利用者のアンケートを集計した6月より前に、全道の社会人及び大学生を対象としたアンケート調査を実施しており、恣意的にアンケートの内容を変えたものではありません。

まだ決定では無いのですね。

記念塔の解体の判断に至った考え方をお示しした「交流空間構想」は、平成30年12月に決定・公表しており、令和4年度予算におきましては、記念塔の解体工事費を計上しています。

また、新たなモニュメントの設置を含めた広場整備の具体的な内容については、その所要額も含め、今後、民間事業者からのご提案や道民の皆様からのご意見などを踏まえ、決定することとしています。

私達建築家有志は、2020年より3度の公開質問状を知事宛に提出しました。「危険だ。金が掛かる。交流空間構想に基づく。」の一辺倒でした。同年6月建築家10数名で塔内の視察を行いました。「塔は健全」「外皮は熟成」でした。大改善は不要で10年単位の現状維持管理費用を使用して半径50mの侵入防止安全策（公園化）を提案しましたが、回答は得られませんでした。同時に10階以上の内部視察も要求しましたが、回答はありません。不思議です。

記念塔の存続を求める団体の方々からの質問に対しましては、「交流空間構想」でお示しした考え方をご理解いただけるよう、塔の解体もやむを得ないと判断に至った考え方について、その根拠もお示ししながら、回答させていただきました。

平成29年度に実施した設計・施工の専門業者による記念塔の現況調査によると「主体鉄骨部は、最低限必要な状態を維持継続している一方で、塔体は常に過酷な環境下にあるため、経年とともに、二次部材の腐食、溶接の破断、錆片、錆粉などの不具合が進行すること、不測の落下事故を完全に防ぐことは不可能に近い」とされています。

また、塔の構造上、老朽化の進行を防ぐことは困難であり、塔の現況や過去の修繕実績を踏まえると、今後とも記念塔を維持する場合は、公園を利用される方々の安全確保の観点から、定期的な維持管理に加え、大規模修繕を実施する必要があります。

ご提案のあった公園化につきましては、維持管理費用を費やしてもなお塔の老朽化を防ぐことは困難なことや、錆片や部材の落下などが続いている状況を踏まえると、人的被害をはじめ、塔の周辺に影響を及ぼす危険度が増しているものと認識しており、採用することは難しいと考えます。

記念塔内部への視察につきましては、ご要望を受け、一昨年（2019年）の6月に普段立入ができない記念塔内部の現状をご覧いただきましたが、現在、記念塔はエレベーターが使用できないことに加え、錆や腐食の進行に伴う錆片などが視察者の歩行に支障をきたす可能性があるなど、安全性を十分に確保することが困難な状況にあることから、難しいものと考えています。

S45年からH28年までにかかった百年記念塔の建設費と補修費の合計は約13億7千万でした。一方で2020年度の除排雪費は約220億円でした。必要とあれば春になれば融けてなくなる雪のためでも多額の費用をかけます。当初、「高さも量感においても雄大な記念塔を建設する。」とその設置目的に謳われてつくられた百年記念塔は、それほど価値のないものだったのでしょうか。

記念塔は、長く道民の皆様が親しまれてきており、道としては、その保存・活用について、様々な専門家の方々の知見を伺うとともに、道民の皆様からのご意見を踏まえ、慎重に検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは難しく、塔からの錆片や部材の落下の危険性を排除できないため、公園を利用される方々の安全確保や将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断したものであり、その歴史的、文化的価値を否定するものではありません。

塔は健全です。今求められてるのは、コロナ対策です。そちらに、7億2千万円を回すべきです。

道では、記念塔の保存・活用について、平成28年以降、これまで道民の皆様の様々なご意見を踏まえ、様々な専門家の方の知見を伺いながら時間をかけ、検討を重ねてきました。

その結果、外板パネルの穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に雨水の塔内部への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されますが、塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至りました。

塔からの錆片等の落下が続いており、その危険性が排除できない以上、所有者として、公園を利用される方々の安全確保等の観点から、解体もやむを得ないと判断したものです。

なお、道として、コロナ対策に必要な措置を講じてきているところです。

一番の疑惑のある説明表現として、先人とは誰の事を指しているのか。

先人道産子道民の偉大な開拓の歴史の偉業を消すな。

先人は過ちも含めて北海道・日本に関わった世界の人々すべてだと思います。

先人とは誰の事を指していますか。

今日の北海道を築き上げてきた有名無名すべての先人を指しています。



## 【ご意見など】

私は賛成しております。現知事が決定した訳でもないですし。覆すのは容易でもないですし。では何故、10年スパンの修繕で良かったものがコンスタントに修繕せねばならなかったのか…。井口さんのお話しも本来の話とは異なる。説明にはなっていないと思います。

賛成派は後世に納得できる説明できるのですか。信用されたいですよ、説明できないなら。ココにも残ってますし。

地元ローカルでやっていたけど、多数が取り上げない事に問題があるのであって、いきなり出てきた訳でも、隠蔽していた訳でもない。

(「是非、町内会ごとに説明をしてみわって生の声を聴くべきでは。」の質問の後、)  
それは現在の北海道博物館で十分にやっていらっしゃるかと思います。

このような説明会の開催に御礼申し上げます。

解体の結論ありきの無意味な説明会にとりあえず参加してみた。無駄な時間に

私には北海道は「道は丁寧な説明をしてるべ、議案は道議会を通過させた。解体の権限は行政に(浸透した共産主義者や鈴木直道知事にある)おまえら日本人は黙ってろ！丁寧な説明をしてやるから文句をいうな」と聞こえる。

屋外構築物の緻密な酸化被膜熟成は困難。作業者の解体時の安全確保のため早急に判断し、解体すること。

百年記念塔は単なる建造物ではありません。

北海道道議会の新設予算は1,600億円。今年の道予算は大幅に余している。北海道は百年記念塔を解体したくて仕方ないですね。

R3年道議会第三回定例議会の滝口信喜議員(室蘭)の質問と、庄巻は今年R4第1定の道見議員(札幌市北区)の「なぜ道はそれほどまでに解体にこだわるのか」、「道の考え方を説明する説明会はいらない」、「よせられた意見に向き合う事すら拒否する道の態度は問題だ」。

ウポポイの予算から記念塔補修費に回してください。

ウポポイの予算並みに保存予算を確保して下さいませ。

多様性という言葉を聞くとうさん臭さを感じます。

塔の解体論について「多額の維持管理費とアイヌ民族の問題がセットとして扱われ、新聞・テレビインターネットにより解体を印象付ける報道が多く見られました。」という記事を見かけました。

世界有数の豪雪極寒の地である北海道が今やアジアを代表する富豊の地になったのは、明治2年の開拓使の発足、3県時代を挟み、150年にわたる北海道庁の功績、なかんずく道庁職員の皆さまの先輩たちのご努力があり、北海道百年記念塔はそうした先達の功績を讃えるモニュメントでもあります。それを今解体するということについて、今日、ご出席されているみなさま一人ひとりからご感想をいただきたい。

何をいってもダメだな…糠に釘ってこういうことを言うんだな。

鈴木なおみち知事がトドメの決定。

知事は北海道を売るのではなかった、あげようとしている

鈴木知事の問題ではなく、当時の高橋はるみ知事の問題だと思います。

北海道百年記念塔H45ーR3建設及び修繕費の棒グラフ、金額をそろえて知事の在任期間を追加したものを展開しますね。道の資料は印象操作ですので。直しました。

ジェノサイド北海道になる気ですか。

覆せば良いとか、国立施設の費用を使うとか、現知事がどうのとか…話しの本筋に合っていない気がします。

提供された資料は大切です。保全予算の減少傾向が一目瞭然です。

いらなすな。

これらの質問を読み上げている方は、これらの質問をどのように受け止めているか、個人的感想を聞きたいです。

新たなモニュメントの予算はおおうそ。

解体に至ったいきさつは、日本人は北海道の侵略者だ解体。

公的な場所は、時の知事の都合でばっさばっさと切られるのでしょうか。

真摯に受け止めて…。

北海道の文化局に対して集団訴訟ですね。

今回の説明会には全く関係ない話題です。

司法に委ねるしかないのか…。

謝罪と賠償だ。

正に支那のサイレントインベーションじゃないですか。

道の説明会は、関ヶ原吉川広家の手弁当並の茶番だわ。

北海道は日本でなくなる日が近づきます。

将来世代は負担をすくなく支那人として生きるのか。

北海道百年記念塔ファンで公開されています。

今回の住民説明会は、井口健氏も参加しています。

道議会の決定ですからね。自民党道議会が一番の戦犯ですね。道議だれも興味なし。町村金五氏もあの世で嘆いてますね。

みなさんは北海道の人ですか。日本の方ですか。

画像のファイルを送りますので、皆さんDLしてくださいね。北海道百年記念塔の、去年までほったらかしにされた白紙の地図です。

法律に詳しい方、執行の停止を仮処分申請して欲しいです。道の暴走としか理解できない説明会でした。

解体賛成派です。

この状況を見れば関心のあるこの参加者は解体慎重若しくは反対の方々が殆どだと思います。これをマスコミの方も見ているならばこのまま道民、国民に発信して下さい。

賛成異議なし。

私は「殆ど」賛成派がいなかったと書く必要がありましたね。大変失礼いたしました。

マスコミの方がこの状況をまとめて発信してくれたらその局や新聞社は信用します。出来ないと思うけど。

賛成です。

貰い鑄ってやつだな。

知事は過去のパンドラの箱を開けたか。

本説明会についてどのような報告、報道が行われるのか、しっかり監視する必要があります。

明日の報道が楽しみです。

納得いきません。

これから道の対応を注視します。

公開をお楽しみに。

悲しかったです。

何も得られなかった。

報道等をしっかりチェックしましょう。

グダグダ。

声をあげましょう。

報道機関も注視します。

とにかく何が出来るのか、この一点に集中し出来る事をやりましょう。

北海道開拓百年記念塔解体反対。

賛成の声はなかったのですね。

絶対反対。

北海道開拓百年記念塔解体反対。

#北海道百年記念塔を守ろう  
#北海道百年記念塔解体反対

明日から毎日「北海道文化振興課」のサイトをチェックする生活が始まる orz。